

II. 統計

1. 実績の概要

(1) 産科部門診療実績

産科部門については診療所、助産所を含む県内全ての分娩取扱医療機関にデータ提供を依頼し、県内の周産期医療の現状を把握できるようにしている。

対象医療機関は 11 病院、16 診療所、8 助産所となっている。

本調査による 2018 年の総分娩数は 9,665 例であった。うち病院が 4,348 例で 45.0%、診療所が 5,132 例で 53.1%、助産所が 185 例で 1.9%となっている。

早産と言われる 37 週未満の分娩は 518 例で全体の 5.3%となっている。また低出生体重児は 870 例で 8.9%となっている。診療所でも 258 例(全低出生体重児のうちの 29.7%)の低出生体重児を扱っている。高年出産と言われる 35 歳以上での出産は 2,722 例であり、全体の 28.2%となっている。

合併症妊娠では子宮筋腫が最も多く 252 例となっている。産科合併症は切迫早産・前期破水が 1,075 例で最も多い。

(例)

		奈良医大	県総合	近大奈良	天理よろづ	病院 (左4病院除く)	診療所	助産所	合計
分娩様式	総分娩数(例)	996	659	176	414	2,103	5,132	185	9,665
	経膈分娩	674	441	110	344	1,616	4,218	185	7,588
	帝王切開	322	218	66	70	487	914	-	2,077
	うち予定	171	128	5	45	298	538	-	1,185
	うち緊急	151	90	61	25	189	376	-	892
	帝王切開率(%)	32.3	33.1	37.5	16.9	23.2	17.8	-	21.5
分娩週数 (死産児は除く)	35週未満	77	61	13	1	-	4	-	156
	35週	34	39	6	3	6	11	-	99
	36週	56	35	9	10	62	91	-	263
	37週	162	115	29	59	252	401	9	1,027
	38週	243	159	43	107	449	1,016	36	2,053
	39週	241	120	36	132	615	1,591	66	2,801
	40週	175	122	35	89	538	1,467	68	2,494
	41週	63	48	11	15	171	513	6	827
	42週	-	-	-	-	1	24	-	25
	42週以上	-	-	-	-	-	-	-	-
不明	1	-	-	-	-	-	-	1	
出生体重 (死産児は除く)	1,500g未満	38	18	2	-	-	-	-	58
	1,500-1,999g	56	39	7	1	4	8	-	115
	2,000-2,499g	141	120	24	31	130	250	1	697
	2,500g以上	817	522	149	384	1,960	4,860	184	8,876

(例)

		奈良医大	県総合	近大奈良	天理よろづ	病院 (左4病院除く)	診療所	助産所	合計
出産時年齢	35歳未満	671	379	96	295	1,563	3,832	133	6,969
	35-39歳	257	209	68	92	440	1,089	44	2,199
	40-44歳	89	70	11	27	96	210	8	511
	45歳以上	5	1	1	-	4	1	-	12
合併症妊娠	子宮筋腫	67	53	12	5	42	73	-	252
	子宮筋腫(核出術後)	4	18	-	-	9	10	-	41
	卵巣嚢腫(腫瘍)	4	8	14	5	27	21	-	79
	子宮頸癌(含円錐切除後)	3	14	-	-	7	10	-	34
	子宮奇形	2	6	-	-	6	3	-	17
	甲状腺機能亢進症	11	15	2	4	11	10	-	53
	甲状腺機能低下症	31	23	6	1	27	34	-	122
	糖尿病(含GDM)	62	43	27	17	39	18	-	206
	喘息	14	13	3	2	26	56	-	114
	慢性腎炎	1	3	-	-	2	-	-	6
	本態性高血圧	10	5	-	-	3	-	-	18
	I TP	5	4	2	-	-	-	-	11
	自己免疫疾患	11	7	1	1	4	3	-	27
	循環器疾患	16	4	2	3	10	4	-	39
	精神科疾患(含てんかん)	47	36	2	3	12	10	-	110
	ウイルス性肝炎 (HA, HB, HCなど)	3	-	1	-	2	4	-	10
消化器疾患 (虫垂炎、潰瘍性大腸炎など)	78	4	1	-	20	1	-	104	
その他	63	-	-	-	1	45	-	109	
産科合併症 (重複あり)	切迫早産・前期破水	114	182	25	41	465	242	6	1,075
	妊娠高血圧症候群	58	37	10	4	71	119	-	299
	胎内胎児発育制限	80	35	10	6	34	30	1	196
	多胎妊娠	65	44	7	2	4	3	-	125
	前置胎盤	10	12	4	-	1	1	-	28
	産後出血	18	-	3	-	51	117	3	192
	子癇	-	1	-	1	4	1	-	7
	弛緩出血	108	21	3	21	119	150	-	422
	常位胎盤早期剥離	16	5	1	-	6	20	-	48
	HELLP症候群	5	1	-	2	1	1	-	10
	低置胎盤	5	4	1	2	3	3	-	18
	血液型不適合	1	9	5	-	10	9	-	34
	羊水過多	6	3	1	-	2	15	-	27
	羊水過小	9	3	-	1	4	53	-	70
	胎児異常	35	1	4	-	13	5	2	60
その他	261	-	-	-	6	1	1	269	
産科手術他	子宮頸管縫縮術	26	2	-	3	8	20	-	59
	卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	-	2	-	1	20	-	-	23
	産道血腫除去術	8	2	-	1	1	5	-	17
	子宮動脈塞栓術	5	-	-	-	2	-	-	7
	子宮摘出術	-	-	-	-	7	-	-	7
	胎児胸腹水穿刺	-	-	-	-	-	-	-	0
	羊水除去	-	-	-	-	-	-	-	0
	その他	-	-	-	-	34	-	-	34
輸血治療症例	11	12	-	1	8	7	-	39	

※参考

●医療機関別 特定妊婦数及び未受診妊婦数

各医療機関において分娩を取り扱った患者のうち市町村が認定した特定妊婦の数について集計を行った。

医療機関等において、特定妊婦と思われる者を把握したときには、支援につなげるため市町村に情報提供することが児童福祉法において努力義務として求められている。県内医療機関においても関係機関との連携に努めているところである。

	奈良 医大	県総合	近大 奈良	天理 よろづ	市立 奈良	大和 郡山	大和 高田	高井	桜井	西和医療 センター	生駒 市立	診療所	助産所	計
特定妊婦数	56	16	4	0	18	0	19	1	3	0	0	41	0	158
未受診妊婦数	0	2	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	5
計	56	18	4	0	19	0	19	1	3	2	0	41	0	163

●妊娠の届出（母子健康手帳の交付）等の状況

市町村への妊娠届出数のうち保健師が面談、アセスメント等して支援が必要となった妊婦の数及び特定妊婦数について県内市町村分をとりまとめて集計している。

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
総数	妊娠届出数	10,080	9,447	9,445	8,901
	支援が必要となった妊婦の数	1,296	1,384	1,995	1,803
	特定妊婦数	185	151	203	209
満11週以内 (3ヶ月以内)	妊娠届出数	9,507	8,971	9,034	8,526
	支援が必要となった妊婦の数	1,098	1,206	1,830	1,650
	特定妊婦数	122	104	158	155
満12週～19週以内 (第4月～第5月以内)	妊娠届出数	396	335	302	268
	支援が必要となった妊婦の数	130	106	103	101
	特定妊婦数	31	26	24	32
満20週～27週以内 (第6月～第7月以内)	妊娠届出数	76	55	53	44
	支援が必要となった妊婦の数	35	40	37	29
	特定妊婦数	16	8	16	10
満28週～分娩まで (第8月～分娩まで)	妊娠届出数	48	28	16	17
	支援が必要となった妊婦の数	22	22	14	17
	特定妊婦数	11	12	3	9
分娩後	妊娠届出数	9	1	7	2
	支援が必要となった妊婦の数	7	1	6	2
	特定妊婦数	2	0	2	1
不詳	妊娠届出数	44	57	33	44
	支援が必要となった妊婦の数	4	9	5	4
	特定妊婦数	3	1	0	2

(健康推進課調べ)

(2) 小児・新生児部門診療実績

小児・新生児部門については従来通り、奈良県立医科大学附属病院（奈良医大）、奈良県総合医療センター（県総合）、近畿大学奈良病院（近大奈良）、天理よろづ相談所病院（天理よろづ）、市立奈良病院（市立奈良）からデータ集計を行った。

本調査による2018年の小児・新生児入院数は948例で、うち院内出生が799例、院外出生が149例であった。入院時疾患は呼吸器疾患が最も多く、219例であった。人工呼吸器管理症例数は186例で全体の19.7%であった。早期新生児死亡は4例、後期新生児死亡は1例で、死亡症例の詳細は下表のとおりである。新生児搬送症例数は128例で、搬送疾患名は呼吸器疾患が48例と最も多い。

(例)

施設名		奈良医大	県総合	近大奈良	天理よろづ	市立奈良	合計
入院数	院内出生	401	200	51	91	56	799
	院外出生	53	72	23	1	-	149
入院時疾患名	呼吸器疾患	53	100	12	44	10	219
	心・循環器疾患	18	2	3	-	-	23
	消化管疾患	11	4	14	-	4	33
	脳・神経疾患	12	3	-	3	2	20
	染色体異常 奇形症候群	19	6	1	-	-	26
	感染症	8	5	1	17	5	36
	その他	327	152	43	29	35	586
人工呼吸器管理症例	入院数	448	272	74	92	56	942
	人工呼吸器管理症例数	116	60	10	0	0	186
	人工管理症例率 (%)	25.9	22.1	13.5	0.0	0.0	19.7
早期新生児死亡数		3	-	-	1	-	4
後期新生児死亡数		-	1	-	-	-	1
新生児搬送収容数		48	69	10	1	-	128
新生児搬送疾患名 (重複あり)	呼吸器疾患	17	31	-	-	-	48
	心・循環器疾患	12	5	-	-	-	17
	消化管疾患	1	5	6	-	-	12
	脳・神経疾患	7	2	-	-	-	9
	染色体異常 奇形症候群	5	4	-	-	-	9
	感染症	4	2	-	-	-	6
	その他	9	24	7	1	-	41

死亡例一覧

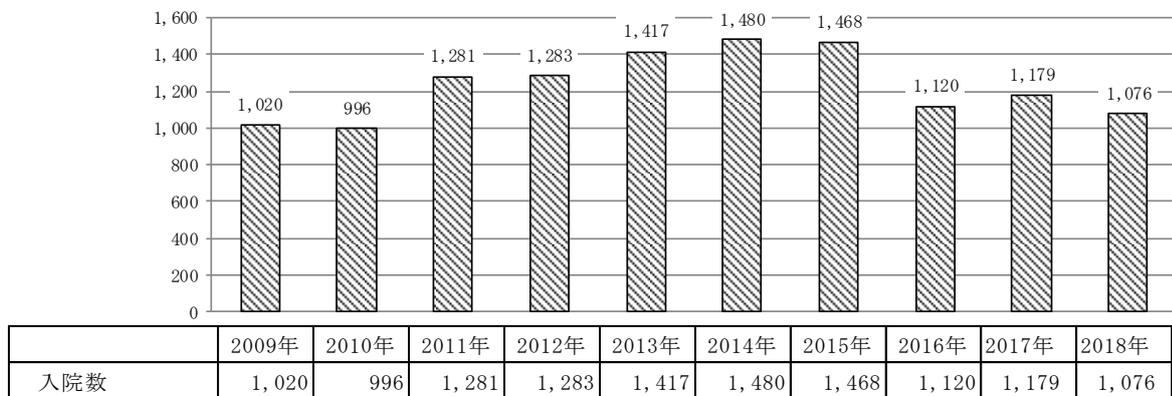
病院	性別	出生週数	出生体重	死亡日齢	病名
奈良医大	女	26週1日	409g	2日	超低出生体重児 新生児仮死 新生児遷延性肺高血圧
	男	25週5日	928g	40日	超低出生体重児 脳室内出血4度 消化管穿孔
	男	32週1日	2,574g	0日	頸部嚢胞
	男	36週6日	3,562g	1日	先天性横隔膜ヘルニア右側相同 単心房単心室
県総合	男	41週	2644g	9日	新生児仮死、新生児虚血性低酸素性脳症
天理よろづ	男	41週	3,144g	0日	胎児機能不全

2. 奈良県立医科大学附属病院

(1) 産科部門診療実績

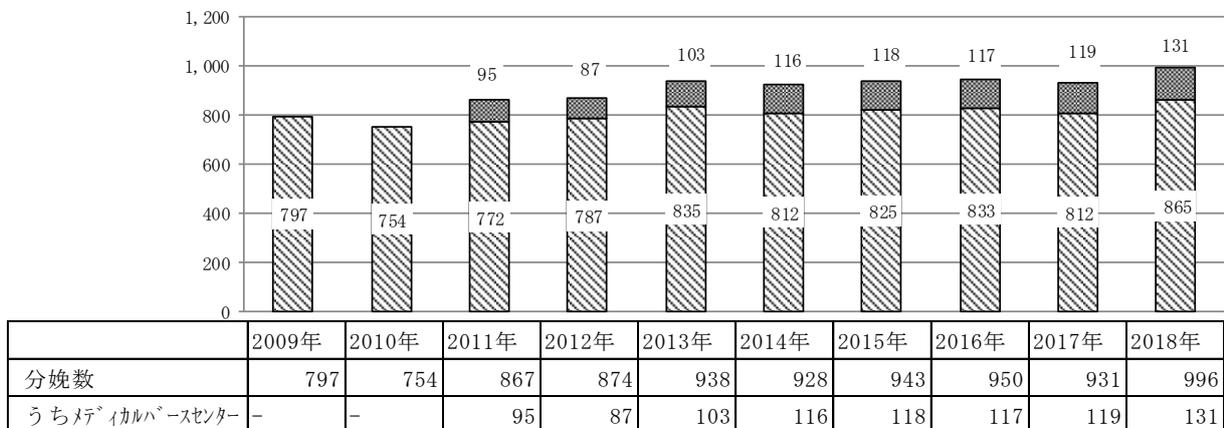
◆ 入院数（例）

2018年の奈良医大附属病院産科病棟への入院患者数は、新病棟への移転による制限のあった2016年並みに減少している。分娩数・搬送受け入れ数に変化がないため、病棟運用の効率化や安定した症例の退院・前医帰院を進めたことが要因と考えられる。



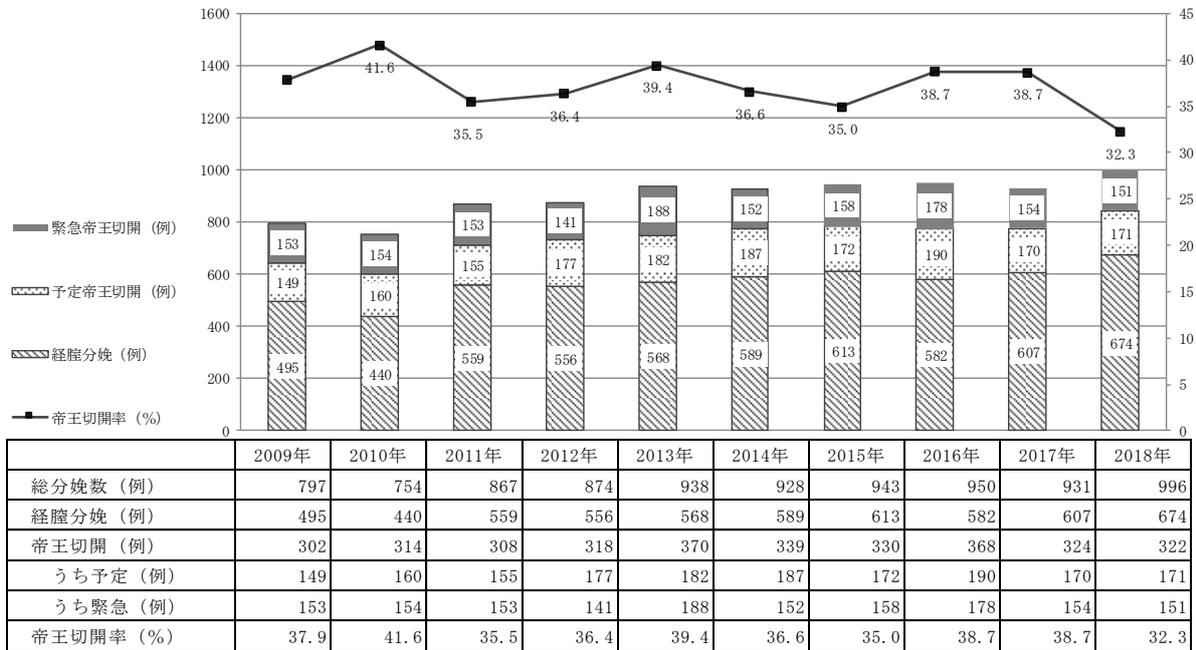
◆ 分娩数（例）

2018年の奈良医大附属病院の分娩数は、統計の確認できる1976年以降では史上最高を更新した。いわゆるローリスク症例は30%強に留まっており、ハイリスク妊婦そのものの増加と、当院への早期の紹介が要因と考えられる。



◆ 分娩様式

分娩方法について、帝王切開率が低下傾向にあり、近年では最も低い。ハイリスク例でも経膈分娩可能なものが増えたこと、胎児モニタリングの判読方法が周知されたことが要因かもしれない。当科に対する麻酔科・中央手術部の協力は非常に良く、制約を感じることはほぼない。



◆ 分娩週数 (例 死産児は除く)

分娩週数については2017年と大きな差はない。奈良県総合医療センターとの週数分担が良好に行われていると考える。

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
22週	2	1	-	-	-	2	3	1	2	1
23週	-	-	1	2	2	1	2	1	1	-
24週	-	3	2	-	2	3	5	2	4	2
25週	3	-	2	1	4	1	1	2	3	2
26週	4	6	1	-	1	5	2	3	4	4
27週	10	3	1	3	2	3	2	1	7	7
28週	3	5	7	5	5	4	8	4	1	3
29週	4	8	4	7	4	4	2	6	-	5
30週	5	5	6	3	3	3	4	3	5	9
31週	11	9	13	5	4	7	6	7	8	6
32週	19	10	11	9	16	7	9	8	11	8
33週	15	18	9	14	20	11	10	8	10	13
34週	23	20	14	21	22	8	10	21	20	17
35週	30	38	39	30	33	24	33	15	27	34
36週	55	41	59	54	54	41	77	62	46	56
37週	56	110	105	115	106	156	159	174	129	162
38週	182	150	159	198	246	208	209	225	221	243
39週	137	153	191	167	172	202	182	220	182	241
40週	162	112	157	172	183	168	203	177	182	175
41週	75	57	68	54	45	51	58	64	64	63
42週	1	5	3	1	-	-	4	1	2	-
不明	-	-	-	2	3	-	5	2	2	1

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

1,500g未満の極低出生体重児の入院数は38例で、ここ数年変化がない。

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
500g未満	2	2	-	3	-	5	7	3	9	3
500-999g	17	12	12	11	19	15	19	15	9	18
1,000-1,499g	20	26	26	16	27	25	13	20	20	17
1,500-1,999g	62	74	58	57	60	45	48	40	48	56
2,000-2,499g	219	148	155	129	165	136	137	135	143	141
2,500g以上	521	537	666	690	732	748	770	763	753	817

◆ 出産時年齢（例）

40歳以上の分娩は若干減少したが、45歳を超える出産は増加した。当院では母体血を用いた非侵襲的出生前遺伝学的検査（NIPT）の認定施設であるほか、臨床遺伝専門医・認定遺伝カウンセラーによる遺伝外来での相談にも応じている。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
35歳未満	593	632	644	610	636	614	671
35-39歳	212	239	225	250	240	249	257
40-44歳	68	64	56	79	72	103	89
45歳以上	1	3	4	4	2	2	5

◆ 合併症妊娠（例）

合併症妊娠の内訳には大きな変化がない。ITP（免疫性血小板減少性紫斑病）が増加しているが、多くは妊娠性の血小板減少であり、有症候性のもや産後に改善しなかった症例はなかった。

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
子宮筋腫	-	-	-	-	69	52	49	36	67	67
子宮筋腫（核出術後）	36	37	32	49	16	6	5	-	-	4
卵巣嚢腫（腫瘍）	10	8	15	8	26	22	25	25	20	4
子宮頸癌（含円錐切除後）	4	7	11	7	9	7	9	-	15	3
子宮奇形	4	4	7	4	4	2	4	3	4	2
甲状腺機能亢進症	11	7	13	18	17	8	14	9	13	11
甲状腺機能低下症	6	6	11	6	11	17	14	17	35	31
糖尿病（含GDM）	12	15	31	28	39	45	54	62	67	62
喘息	11	14	24	26	49	19	25	28	19	14
慢性腎炎	6	7	5	7	3	1	12	4	1	1
本態性高血圧	6	4	12	9	16	12	12	13	13	10
ITP	4	6	7	5	9	-	-	-	-	5
自己免疫疾患	10	6	17	12	11	14	10	9	14	11
循環器疾患	10	10	15	14	8	17	14	-	-	16
精神科疾患（含てんかん）	35	29	48	43	58	47	49	43	25	47
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	11	7	14	10	6	9	11	5	5	3
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	6	5	17	6	8	13	12	20	8	78
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	63

2013年：筋腫に核出術後含む

◆ 産科合併症（例 重複あり）

2017年に急激に増加した切迫早産・前期破水の入院例が元の数に復した。当院（2016年）と奈良県総合医療センター（2018年）の病棟移転と、その前の搬送応需制限が関係している可能性がある。また、胎内胎児発育制限（FGR）の入院例が増加しているが、これは妊娠高血圧腎症（入院管理が推奨される）の診断基準にFGRが追加された時期に一致している。

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
切迫早産・前期破水	165	182	188	164	151	131	109	115	177	114
妊娠高血圧症候群	73	69	66	52	51	49	49	51	63	58
胎内胎児発育制限	59	64	51	51	36	45	31	28	52	80
多胎妊娠	58	56	60	46	76	56	51	66	55	65
前置胎盤	21	26	27	28	20	14	21	16	21	10
産後出血	17	17	30	23	12	24	10	21	28	18
子癇	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
弛緩出血	-	-	-	-	-	-	-	142	91	108
常位胎盤早期剥離	13	9	23	11	9	15	10	18	12	16
HELLP症候群	3	3	5	8	4	6	4	-	5	5
低置胎盤	12	16	19	12	15	12	6	13	19	5
血液型不適合	12	9	20	20	27	11	12	18	13	1
羊水過多	5	9	11	11	8	8	7	7	7	6
羊水過小	7	5	8	6	9	14	9	7	7	9
胎児異常	34	50	56	53	25	28	-	36	20	35
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	261

※弛緩出血については2015年以前は未集計

◆ 産科手術他（例）

産科手術について、子宮頸管縫縮術の実施数が増加した。頸管無力症が疑われる切迫早産例に対して効果のあるエビデンスが出てきたため、担当医の裁量を認めている。

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
子宮頸管縫縮術	12	7	7	15	11	8	14	12	12	26
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	6	5	5	5	1	1	3	-	-	-
産道血腫除去術	5	4	9	1	5	8	1	-	-	8
子宮動脈塞栓術	5	6	6	6	8	5	3	1	8	5
子宮摘出術	2	2	2	-	3	4	4	2	1	-
胎児胸腹水穿刺	3	4	5	1	-	-	-	-	-	-
羊水除去	1	2	4	2	-	-	-	-	-	-

◆ 輸血治療症例（例）

2017年には輸血治療例が多かったが、2018年はそれまでの数に戻っている。輸血部は24時間体制でサポート頂ける他、輸血の代替となる新規薬剤についても検討を進めている。下記の症例数は同種血輸血のみであり、自己血輸血は含まない。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
輸血治療症例数	15	12	12	34	19	20	22	9	9	23	11

◆ NICU 収容症例数（例）

NICU 症例数については 2016 年の病棟移転以降、大きく増加している。これまで産科病棟で観察していた症例でも NICU・GCU に収容できるようになったためであり、新生児科の努力の結果である。

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
NICU収容症例数	140	151	128	111	147	131	110	195	377	401

◆ 多胎妊娠（例）

多胎妊娠数についてはやや増加したが、とくに一絨毛膜二羊膜双胎が多く、ハイリスク妊婦として当院に集約化されていることが分かる。

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
双胎	57	56	59	43	75	56	50	66	55	64
うちMD	20	18	34	15	24	19	37	20	22	44
うちDD	37	38	25	28	51	37	11	45	33	20
うち不明	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
三胎	1	-	1	-	1	-	1	1	2	1

◆ 母体搬送収容数（例）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

母体搬送収容数は 2014 年以降大きな変動がないが、これらをほぼ MFICU で収容するため、MFICU における搬送例の比率は急激に上昇している（後述）。母体救命のための搬送は病床の状況を問わず全例収容している。

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
母体搬送収容数	130	153	146	157	156	107	125	106	127	130

◆ 母体搬送疾患名（例 重複あり）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

母体搬送疾患の内訳については 2013 年にシステムによる集計を用い始めて以降、大きな差異はない。胎内胎児発育制限については外来紹介例が多く、主因としての搬送例がほぼなくなっている。

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
切迫早産・前期破水	68	89	75	77	87	49	56	44	62	59
妊娠高血圧症候群	17	27	17	22	13	7	10	5	9	14
胎内胎児発育制限	11	16	5	15	7	1	3	3	-	-
産後出血	10	11	15	15	6	16	12	12	20	16
胎児機能不全	10	12	9	15	8	2	1	4	3	4
常位胎盤早期剥離	10	4	14	9	11	8	8	7	3	4
前置胎盤	5	6	2	7	5	2	5	1	7	-
多胎	4	5	3	2	11	2	4	1	-	-
HELLP症候群	3	3	2	6	3	4	3	1	2	2
胎児奇形	3	6	1	1	-	3	1	1	2	3
未受診	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
その他	18	22	17	13	61	13	22	30	17	25

◆ 胎児異常（例 重複あり）

胎児異常の例数は記録上 2017 年に比べて増加しているが、実際の数には大きな変化はなく、集計上の問題であろう。現在でも軽度の脳室拡大・水腎症など、全てを網羅できていない可能性もある。ただし口唇裂・口唇口蓋裂は明らかに増加しており、要因については検討する必要がある。

疾患名	2012年		2013年		2014年		2015年		2016年		2017年		2018年	
	症例数	胎内診断												
cystic hygroma	4	4	1	1	4	4	6	6	3	3	1	1	2	2
18トリソミー	3	2	3	2	-	-	3	3	4	3	1	1	3	1
髄膜瘤	2	2	1	1	-	-	3	2	1	1	-	-	1	1
21トリソミー	6	3	4	-	7	5	3	1	4	2	3	3	1	-
手指異常（合指／多指）	-	-	2	-	1	-	3	-	2	-	-	-	1	-
脳室拡大	2	2	5	5	6	6	2	2	2	2	-	-	3	3
先天性横隔膜ヘルニア	1	1	-	-	1	1	2	2	-	-	1	1	-	-
心室中隔欠損／AVSD	3	1	1	1	2	1	2	1	5	2	-	-	4	4
仙尾部奇形腫	1	1	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-
胎児水腫	1	1	-	-	-	-	1	1	1	1	-	-	1	1
骨系統性疾患	1	1	3	2	-	-	1	1	1	1	1	1	1	1
小腸閉鎖	1	1	-	-	-	-	1	1	1	1	1	1	1	1
無頭蓋症	1	1	-	-	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-
尿道下裂	-	-	2	1	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-
口唇裂・口蓋裂	3	2	3	2	1	1	-	-	5	5	-	-	8	8
不整脈	3	3	4	4	1	1	-	-	-	-	-	-	2	2
胸腹水	3	3	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	2	2
無脳症	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ファロー四徴症	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
水腎症	2	2	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	1	1
兩大血管右室起始	2	2	1	1	-	-	-	-	1	1	-	-	1	1
大血管転位	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鎖肛	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
心臓腫瘍	1	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
十二指腸閉鎖	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
先天性嚢胞性腺腫様奇形	1	1	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Dandy-Walker奇形	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
大脳半球間裂嚢胞	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
卵巣嚢腫	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
脳瘤	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
気管軟化症	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
尿道閉鎖	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Treacher-Collins症候群	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全前脳胞症	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
総排泄腔遺残	-	-	1	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
腹壁破裂	-	-	1	1	2	2	-	-	2	2	-	-	-	-
筋ジストロフィー	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
染色体微小欠失	-	-	2	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
片腎欠損	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Potter sequence	-	-	1	1	1	1	-	-	1	1	-	-	-	-
食道閉鎖	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
脳梗塞	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
尿管遺残	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無眼球症	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
脳梁欠損	-	-	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-	1	1
大動脈離断症	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大動脈縮窄	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	1	1
硬膜下血腫	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
血管腫	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
脳腫瘍	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
脳出血	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-
頭皮欠損	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
左心低形成	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2
小脳低形成	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
頭蓋内嚢胞	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
Ebstein奇形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1
腹部リンパ腫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
胎便性腹膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
内臓錯位	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
胎児心不全疑い	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1

◆ MFICU 入院患者数（例）

MFICU 入院患者数についてはほぼ横ばいであるが、搬送症例の比率が著明に上昇した。より重症な搬送例を MFICU で管理し、自院外来例は適切なタイミングで入院させるため MFICU でなくても管理できている理想的な病床稼働と思われる。

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
院内症例	68	46	66	49	38	64	37	37	67	34
搬送症例	99	142	125	142	141	97	112	83	118	124
合計	167	188	191	191	179	161	149	120	185	158

◆ MFICU 入院適応（例）

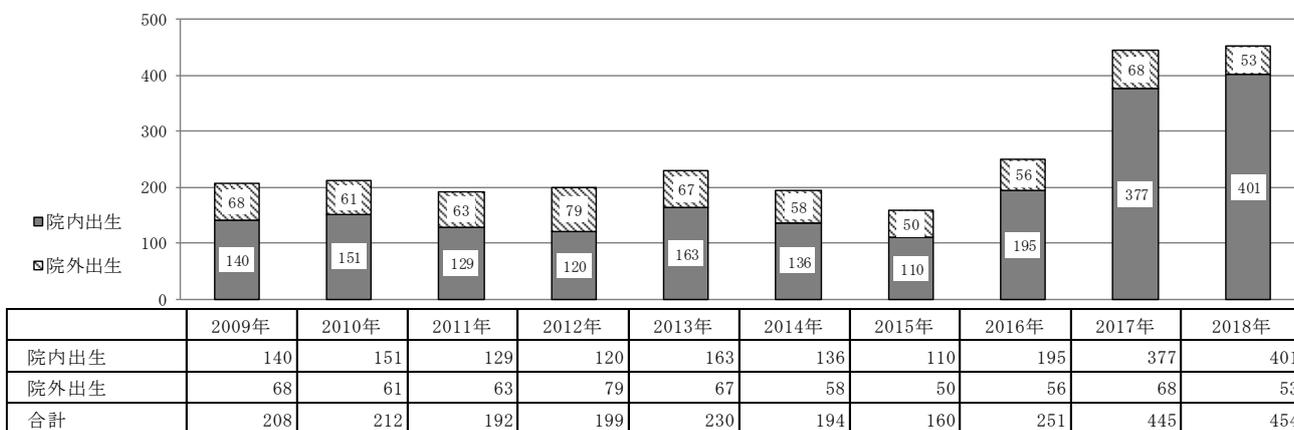
MFICU の入院適応については大きな変化がないが、前置胎盤例が少ない。これも適切な事前診断により管理され、出血による MFICU 管理を必要とする例が少なかったためと言える。一方で胎児異常や産科以外の合併症で管理を必要とする例がやや多かった。

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
切迫早産	88	99	81	82	89	66	63	56	78	69
妊娠高血圧症候群	28	30	35	31	24	16	14	21	26	22
産後出血	13	14	23	20	18	25	11	18	28	18
常位胎盤早期剥離	8	5	19	8	11	13	11	9	6	12
胎内胎児発育不全	15	18	15	19	12	2	8	10	5	9
前置胎盤	13	17	14	11	13	8	10	8	16	2
双胎	12	8	7	4	15	10	6	8	6	10
HELLP症候群	3	3	5	8	4	4	4	3	4	4
胎児異常	4	4	2	3	5	6	2	3	1	8
肺水腫	2	3	2	3	3	-	-	2	1	-
合併症妊娠	13	20	25	36	18	5	6	5	7	20
その他	7	5	3	3	3	-	17	12	14	8

(2) 新生児部門診療実績

◆ 入院数 (例)

2018年の総入院数は454例(再入院6例)で、院内出生は401例、院外出生は53例であった。2016年9月の病棟移転による病床数増加に伴い、入院数は著明に増加した。



◆ 入院時疾患名 (例)

病棟移転に伴い、産科の新生児入院病床が無くなり、1,800~2,300gの低出生体重児、黄疸の光線治療、低血糖や哺乳不良などの点滴治療、母体精神疾患や内分泌異常の母体から出生した児のモニタリング目的の入院が増加した。

		2013	2014	2015	2016	2017	2018
心・循環器疾患		5	10	5	13	19	18
内訳	動脈管開存症	-	-	-	-	4	-
	大動脈肺動脈窓	1	-	-	-	-	-
	左心低形成	1	1	-	-	-	1
	左室緻密化障害	-	1	-	-	-	-
	WPW症候群	1	-	-	-	-	-
	不整脈	1	-	-	1	6	1
	VSD ASD	1	-	-	-	-	-
	大動脈縮窄症	-	2	1	1	1	-
	大動脈離断	-	-	-	-	1	-
	右大動脈弓	-	-	-	-	1	-
	Fallot四徴症	-	2	-	1	1	-
	心室中隔欠損症	-	1	-	2	2	1
	先天性動脈管開存症	-	1	1	-	-	-
	総動脈管症	-	-	-	-	1	-
	総肺静脈還流異常症	-	-	-	1	-	1
	両大血管右室起始	-	1	-	2	-	2
	完全大血管転位	-	-	-	1	2	3
	心房粗動	-	1	-	-	-	-
	Ebstein奇形	-	-	-	2	-	1
	血管輪	-	-	2	-	-	-
右側相同	-	-	1	-	-	-	
左側相同	-	-	-	1	-	-	
内臓逆位	-	-	-	1	-	-	
肺動脈閉鎖	-	-	-	-	-	1	
重複大動脈弓	-	-	-	-	-	1	
脳・神経疾患		11	12	3	8	6	12
内訳	修正大血管転位	-	-	-	-	-	1
	大動脈弁狭窄	-	-	-	-	-	1
	先天性心疾患の疑い	-	-	-	-	-	1
	房室中隔欠損症	-	-	-	-	-	1
	動脈管早期閉鎖	-	-	-	-	-	1
	肺高血圧症	-	-	-	-	-	1
	その他	-	-	-	-	2	-
	脳梗塞	1	-	-	-	-	1
	髄膜瘤	1	1	2	1	-	1
	脳室拡大	2	-	-	-	-	-
	頭蓋内出血	1	-	-	-	-	-
	帽状腱膜下血腫	1	-	1	1	-	3
	新生児痙攣	2	-	-	3	2	5
	筋緊張性ジストロフィー	3	-	-	-	-	-
	硬膜下血腫	-	3	-	-	-	-
脊髄脂肪腫	-	2	-	-	-	-	
てんかん	-	2	-	-	-	1	
脈絡叢乳頭癌	-	1	-	-	-	-	
脳梁欠損症	-	1	-	-	-	1	
水頭症	-	1	-	3	2	-	
脳嚢胞	-	-	-	-	1	-	
頭蓋骨早期癒合症	-	-	-	-	1	-	
Dandy-Walker症候群	-	1	-	-	-	-	

次ページへつづく

	2013	2014	2015	2016	2017	2018
呼吸器疾患	38	40	38	28	61	53
新生児一過性多呼吸	21	22	20	15	44	37
呼吸窮迫症候群	1	4	4	-	2	1
胎便吸引症候群	2	1	1	6	1	1
新生児無呼吸発作	7	5	4	1	6	8
気胸	2	3	3	4	5	3
先天性横隔膜ヘルニア	-	2	3	-	1	-
先天性横隔神経麻痺	-	-	-	-	-	-
縦隔気腫	1	-	-	-	-	-
心嚢気腫	1	-	-	-	-	-
先天性乳び胸	1	-	1	1	-	-
声門下狭窄	1	-	-	-	-	-
CCAM	1	-	-	-	-	-
披裂部喉頭軟化症、気管軟化症	-	-	-	-	1	-
出血性肺浮腫	-	2	1	1	-	-
肺リンパ嚢胞	-	1	-	-	-	-
誤嚥性肺炎	-	-	-	-	1	-
胸水	-	-	-	-	-	1
先天性肺気道奇形	-	-	-	-	-	1
先天性嚢胞性腺腫性奇形	-	-	-	-	-	1
呼吸窮迫症候群	-	-	-	-	-	-
間質性肺炎	-	-	1	-	-	-
染色体異常 奇形症候群	17	9	12	17	17	19
ダウン症候群	5	2	3	6	7	11
18トリソミー	2	-	1	-	3	4
13トリソミー	1	-	-	2	-	-
5p-症候群	-	-	-	1	-	-
22q11.2症候群	-	-	-	1	-	-
10番染色体不均衡転座	-	-	-	1	-	-
口唇口蓋裂	2	1	1	-	1	-
GRE1cephalopolysyndactyly syndrome	1	-	-	-	-	-
Jarcot-Levine syndrome	1	-	-	-	-	-
Juberg-Hayward syndrome	1	-	-	-	-	-
Prader-Willi症候群	-	1	1	1	-	-
コステロ症候群	-	-	1	-	-	-
noonan症候群	-	-	1	-	-	-
タウンズブロック症候群	-	-	-	1	-	-
VACTERL連合	-	-	-	-	1	-
奇形症候群	2	-	-	-	-	-
仙骨部皮膚洞	1	-	-	-	-	-
傍尿道のう腫	1	-	-	-	-	-
結節性硬化症	-	1	-	-	-	-
尿道下裂	-	1	1	-	-	-
低形成異形成腎	-	1	-	-	-	-
多嚢胞性異形成腎	-	-	-	2	1	-
仙尾部奇形腫	-	1	-	-	1	-
タナトフォリック骨異形成症	-	-	1	-	1	-
小顎症	-	-	1	1	1	-
尿管管遺残症	-	-	1	-	-	-
陰核肥大	-	-	-	1	-	-
重複陰	-	-	-	-	1	-
先天性頭皮欠損	-	-	-	-	-	1
頸部嚢胞	-	-	-	-	-	1
反張膝	-	1	-	-	-	1
多嚢胞性腎異形成	-	-	-	-	-	1
感染症	2	2	3	4	12	8
新生児感染症	2	2	-	2	10	7
新生児TTS様発疹症	-	-	1	-	-	-
先天性サイトメガロウイルス感染症	-	-	1	2	2	1
細菌性髄膜炎	-	-	1	-	-	-

	2013	2014	2015	2016	2017	2018
消化管疾患	11	20	7	10	9	11
新生児嘔吐症	4	9	1	2	2	1
哺乳不良	-	-	-	1	1	2
腸回転異常症	1	1	-	1	-	-
鎖肛	3	2	1	-	1	1
新生児メレナ	1	1	2	-	-	1
Hirshsprung病	1	2	2	-	-	-
腹壁破裂	1	1	-	1	-	-
臍帯ヘルニア	-	-	-	2	1	-
臍尿瘻	-	1	-	-	-	-
肛門異所性開口	-	1	-	-	-	-
血便	-	-	-	-	-	-
胃軸捻転	-	1	-	-	-	-
急性胃粘膜病変	-	1	-	-	1	2
食道閉鎖	-	-	-	1	-	-
小腸十二指腸閉鎖	-	-	-	-	-	-
小腸閉鎖	-	-	1	2	1	1
結腸閉鎖	-	-	-	-	1	-
小腸軸捻転	-	-	-	-	-	1
先天性横隔膜ヘルニア	-	-	-	-	-	1
先天性胆道拡張症	-	-	-	-	-	1
胃食道逆流	-	-	-	-	1	-
ミルクアレルギー	-	-	1	-	-	-
その他	139	94	87	159	277	302
低出生体重児 (1,500-2,499g)	78	33	38	70	126	122
極低出生体重児 (1,000-1,499g)	24	23	11	24	21	18
超低出生体重児 (<1,000g)	22	22	20	19	18	22
早産児	2	1	-	-	7	7
新生児仮死	7	8	8	15	7	8
sleeping baby	-	-	2	1	-	-
新生児高ビリルビン血症	3	5	-	17	70	89
新生児臍炎	-	-	1	-	-	-
リンパ管腫	-	-	1	-	1	-
ランゲルハンス細胞組織球症	-	-	-	-	1	-
胎児母体間輸血症候群	1	1	-	-	-	-
血友病Bの疑い	1	-	-	-	-	-
Upshaw-Schulman症候群	-	1	-	-	-	-
高インスリン性低血糖	-	-	1	-	-	-
多血症	-	-	-	-	4	2
ABO血液型不適合	-	-	2	-	-	2
先天性血管拡張性大理石様皮斑	-	-	1	-	-	-
左耳出血	-	-	-	-	1	-
新生児薬物離脱症候群	-	-	-	8	18	24
墜落分娩	1	-	1	4	3	5
遺伝性球形赤血球症	-	-	1	1	-	1
卵巣出血	-	-	-	-	-	1
卵巣嚢腫	-	-	-	-	-	1
代謝内分泌	2	2	2	6	37	25
低血糖症	-	-	2	3	21	18
先天性甲状腺機能低下症	-	1	-	2	9	1
一過性新生児甲状腺機能亢進症	2	-	-	1	7	3
ホモシチン尿症	-	1	-	-	-	1
プロピオン酸血症	-	-	-	-	-	1
遠位尿細管性アンドーシス	-	-	-	-	-	1

◆ 出生週数（例）

28 週未満の入院は 16 例とほぼ横ばいで、36 週以上の入院は 330 例と 2016 年の移転後、ほぼ倍増した。

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
22週	2	1	-	-	-	2	1	3	1	1
23週	1	-	1	3	3	2	1	2	2	-
24週	-	3	2	-	3	4	6	3	3	2
25週	3	-	2	2	4	3	1	2	2	2
26週	5	6	1	-	2	5	1	3	6	4
27週	10	3	2	5	2	4	3	2	5	7
28週	5	8	6	5	6	6	7	5	1	3
29週	3	8	3	7	5	4	2	6	-	5
30週	5	4	5	3	7	3	4	5	5	10
31週	11	9	16	6	5	8	6	7	13	6
32週	19	13	13	9	18	8	8	10	16	8
33週	15	20	10	15	27	15	10	8	11	13
34週	24	22	15	24	28	8	11	22	24	19
35週	15	10	15	9	17	13	14	12	32	35
36週	10	9	14	18	14	15	13	20	39	38
37週以上	80	95	87	93	84	89	70	135	280	292
不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3

◆ 出生時体重（例）

1,500g 未満の極低出生体重児の入院数は 40 例と横ばいで、1,500～2,500g の低出生体重児も 165 例とほぼ横ばいであった。

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
500g未満	2	2	-	3	-	5	1	3	3	3
500-749g	8	7	5	4	10	9	10	8	9	7
750-999g	13	6	7	10	13	8	9	9	6	11
1,000-1,249g	9	12	8	9	12	7	3	9	7	6
1,250-1,499g	10	13	18	10	16	16	10	15	15	13
1,500-1,749g	31	30	24	18	21	14	14	14	20	15
1,750-1,999g	27	33	19	23	33	14	18	26	34	42
2,000-2,249g	19	15	21	18	21	10	16	24	53	55
2,250-2,499g	16	20	15	22	26	21	15	31	53	53
2,500g以上	73	74	75	82	73	85	62	106	240	243

◆ 人工呼吸器管理症例

入院数の増加に伴い人工管理症例率は低値であるが、人工呼吸管理症例数は 116 例とやや増加している。

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
入院数（例）	208	212	192	199	230	194	160	251	440	448
人工呼吸器管理症例数(例)	98	105	85	97	99	105	91	94	101	116
人工管理症例率（%）	47.1	49.5	44.3	48.7	43.0	54.1	56.9	37.5	23.0	25.9

◆ 外科手術（心臓、眼科、脳外科など含む）

手術症例は31例で、心臓血管外科症例がやや増加した。

性別	出生週数	出生体重	疾患名			術式		
女	24週	487g	超低出生体重児	出血後水頭症	未熟児網膜症	脳室外ドレナージ	脳室腹腔内シャント	レーザー光凝固術
男	22週	494g	超低出生体重児	未熟児網膜症		レーザー光凝固術		
女	24週	541g	超低出生体重児	未熟児網膜症		レーザー光凝固術		
女	26週	596g	超低出生体重児	壊死性腸炎		人工肛門造設術		
男	28週	609g	超低出生体重児	未熟児網膜症		レーザー光凝固術		
女	27週	626g	超低出生体重児	動脈管開存症		動脈管クリッピング術		
女	28週	682g	超低出生体重児	動脈管開存症		動脈管クリッピング術		
女	27週	790g	超低出生体重児	未熟児網膜症		レーザー光凝固術		
男	27週	816g	超低出生体重児	動脈管開存症		動脈管クリッピング術		
女	25週	820g	超低出生体重児	未熟児網膜症		レーザー光凝固術		
女	29週	872g	超低出生体重児	未熟児網膜症		レーザー光凝固術		
男	25週	928g	超低出生体重児	壊死性腸炎	出血後水頭症	人工肛門造設術	脳室外ドレナージ	
女	26週	1,016g	極低出生体重児	動脈管開存症	出血後水頭症	動脈管クリッピング術	脳室外ドレナージ	
男	28週	1,064g	極低出生体重児	動脈管開存症		動脈管クリッピング術		
男	30週	1,338g	極低出生体重児	動脈管開存症		動脈管クリッピング術		
女	39週	1,700g	18トリソミー	両大血管右室起始症		肺動脈絞扼術		
女	36週	1,728g	18トリソミー	脳髄膜瘤		脳髄膜瘤閉鎖術		
女	33週	1,746g	両大血管右室起始症			体肺動脈短絡術（BTシャント）		
男	40週	2,221g	18トリソミー	ファロー四徴症		心内修復術	気管切開術	
女	38週	2,270g	大血管転位			Jatene手術		
女	35週	2,310g	原発性小腸軸捻転			小腸吻合術		
男	36週	2,480g	脳腫瘍			脳室外ドレナージ	腫瘍摘出術	
女	35週	2,503g	小腸閉鎖			人工肛門造設術		
女	40週	2,698g	脊髄膜瘤	キアリ奇形		髄膜瘤閉鎖術	脳室外ドレナージ	気管切開
女	36週	2,730g	ダウン症	房室中隔欠損症		体肺動脈短絡術（BTシャント）	動脈管クリッピング術	
女	37週	2,764g	心室中隔欠損症			心室中隔欠損閉鎖術		
男	39週	2,804g	両大血管右室起始症			体肺動脈短絡術（BTシャント）		
男	38週	2,894g	大血管転位			Jatene手術		
男	39週	2,960g	大動脈弁狭窄			大動脈弁形成術		
男	38週	3,006g	新生児仮死			気管切開術		
男	38週	3,158g	鎖肛			肛門形成術		

◆ 血液浄化症例

血液浄化症例は重症黄疸による全血交換輸血が2例、一過性骨髄異常増殖症による全血交換輸血が1例、多血の部分交換が1例、新生児仮死による腎不全での血液濾過透析が1例であった。

出生週数	出生体重	適応疾患	治療法
38週4日	3,156g	黄疸 帽状腱膜下血腫	全血交換輸血
37週1日	2,820g	一過性骨髄異常増殖症 ダウン症	全血交換輸血
41週0日	3,204g	黄疸 遺伝性球形赤血球症	全血交換輸血
40週2日	2,790g	多血症 ダウン症	部分交換輸血
40週4日	3,128g	新生児仮死	血液透析

◆ 出生週数別の日齢28日以後の生存数（例）

出生週数22週～28週の生存率は93.3%であった。

	2013年（内訳）	2014年（内訳）	2015年（内訳）	2016年（内訳）	2017年（内訳）	2018年（内訳）
22週	-（- / -）	100.0（2 / 2）	100.0（1 / 1）	33.3（1 / 3）	0.0（0 / 1）	100（1 / 1）
23週	100.0（3 / 3）	100.0（2 / 2）	0.0（0 / 1）	50.0（1 / 2）	100.0（2 / 2）	-（- / -）
24週	66.7（2 / 3）	100.0（4 / 4）	100.0（6 / 6）	100.0（3 / 3）	100.0（3 / 3）	100（2 / 2）
25週	100.0（4 / 4）	100.0（3 / 3）	100.0（1 / 1）	100.0（2 / 2）	100.0（2 / 2）	100（2 / 2）
26週	100.0（2 / 2）	80.0（4 / 5）	100.0（1 / 1）	100.0（3 / 3）	100.0（6 / 6）	75（3 / 4）
27週	50.0（1 / 2）	100.0（4 / 4）	100.0（3 / 3）	50.0（1 / 2）	80.0（4 / 5）	100（7 / 7）
28週	100.0（6 / 6）	83.3（5 / 6）	85.7（6 / 7）	100.0（5 / 5）	100.0（1 / 1）	100（3 / 3）
29週	100.0（5 / 5）	100.0（4 / 4）	100.0（2 / 2）	100.0（6 / 6）	-（- / -）	100（5 / 5）
30週	100.0（7 / 7）	100.0（3 / 3）	100.0（4 / 4）	100.0（5 / 5）	100.0（5 / 5）	100（10 / 10）
31週	100.0（5 / 5）	100.0（8 / 8）	100.0（6 / 6）	100.0（7 / 7）	100.0（13 / 13）	100（6 / 6）
32週	94.4（17 / 18）	100.0（8 / 8）	100.0（8 / 8）	90.0（9 / 10）	93.8（15 / 16）	87.5（7 / 8）
33週	100.0（27 / 27）	100.0（15 / 15）	100.0（10 / 10）	100.0（8 / 8）	100.0（11 / 11）	100（13 / 13）
34週	100.0（28 / 28）	100.0（8 / 8）	100.0（11 / 11）	100.0（22 / 22）	100.0（24 / 24）	100（19 / 19）
35週	100.0（17 / 17）	100.0（13 / 13）	100.0（14 / 14）	100.0（12 / 12）	100.0（32 / 32）	100（35 / 35）
36週	100.0（14 / 14）	100.0（15 / 15）	92.3（12 / 13）	100.0（20 / 20）	100.0（39 / 39）	97.4（37 / 38）
37週以上	97.6（82 / 84）	98.9（88 / 89）	98.6（69 / 70）	100.0（135 / 135）	99.6（279 / 280）	100（292 / 292）

内訳：各週数毎の生存数(例)/各週数毎の出生数(例)

◆ 出生体重別の日齢28日以後の生存数（例）

出生体重500g未満の生存率は66.7%で500～1,000gの生存率は100%であった。

	2013年（内訳）	2014年（内訳）	2015年（内訳）	2016年（内訳）	2017年（内訳）	2018年（内訳）
500g未満	-（- / -）	60.0（3 / 5）	100.0（1 / 1）	33.3（1 / 3）	66.7（2 / 3）	66.7（2 / 3）
500-749g	90.0（9 / 10）	100.0（9 / 9）	80.0（8 / 10）	87.5（7 / 8）	88.9（8 / 9）	100（7 / 7）
750-999g	92.3（12 / 13）	100.0（8 / 8）	100.0（9 / 9）	100.0（9 / 9）	100.0（6 / 6）	100（11 / 11）
1,000-1,249g	100.0（12 / 12）	100.0（7 / 7）	100.0（3 / 3）	88.9（8 / 9）	100.0（7 / 7）	100（6 / 6）
1,250-1,499g	93.8（15 / 16）	100.0（16 / 16）	100.0（10 / 10）	93.3（14 / 15）	93.3（14 / 15）	100（13 / 13）
1,500-1,749g	100.0（21 / 21）	100.0（14 / 14）	92.9（13 / 14）	100.0（14 / 14）	100.0（20 / 20）	100（15 / 15）
1,750-1,999g	100.0（33 / 33）	100.0（14 / 14）	100.0（18 / 18）	100.0（26 / 26）	100.0（34 / 34）	100（42 / 42）
2,000-2,249g	95.2（20 / 21）	100.0（10 / 10）	100.0（16 / 16）	100.0（24 / 24）	100.0（53 / 53）	100（55 / 55）
2,250-2,499g	100.0（26 / 26）	95.2（20 / 21）	100.0（15 / 15）	100.0（31 / 31）	98.1（52 / 53）	100（53 / 53）
2,500g以上	98.6（72 / 73）	100.0（85 / 85）	98.4（61 / 62）	100.0（106 / 106）	100.0（240 / 240）	99.2（241 / 243）

内訳：各体重毎の生存数(例)/各体重毎の出生数(例)

◆ 新生児死亡数（例）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
早期新生児死亡数(日齢7日未満の死亡)	2	2	3	4	4	3
後期新生児死亡数(日齢7日以上、日齢28日未満の死亡)	3	1	1	1	-	-

◆ 死亡例一覧

死亡例は4例で、超低出生体重児が2例のほか、先天性横隔膜ヘルニア1例、頸部嚢胞による呼吸不全が1例であった。

性別	出生週数	出生体重	死亡日齢	病名
女	26週1日	409g	2日	超低出生体重児 新生児仮死 新生児遷延性肺高血圧
男	25週5日	928g	40日	超低出生体重児 脳室内出血4度 消化管穿孔
男	32週1日	2,574g	0日	頸部嚢胞
男	36週6日	3,562g	1日	先天性横隔膜ヘルニア右側相同 単心房単心室

◆ 新生児搬送収容数（例）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
新生児搬送収容数	52	45	62	65	57	48	45	40	51	48

◆ 新生児搬送疾患名（例 重複あり）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

		2013	2014	2015	2016	2017	2018	
内訳	呼吸器疾患	20	18	18	17	25	17	
	呼吸障害	19	17	18	17	25	10	
	新生児無呼吸発作	1	1	-	-	-	6	
	新生児気胸、新生児緊張性気胸	-	-	-	-	-	1	
心・循環器疾患		2	3	3	7	11	12	
内訳	先天性心疾患	-	-	1	6	-	-	
	心雑音	-	1	1	1	-	1	
	心不全	-	1	-	-	-	-	
	心奇形	-	1	1	-	1	-	
	心奇形疑い	-	-	-	-	1	-	
	不整脈	2	-	-	-	1	-	
	動脈管開存症	-	-	-	-	5	1	
	総肺静脈環流異常	-	-	-	-	1	-	
	肺高血圧症	-	-	-	-	-	1	
	上室性頻拍	-	-	-	-	1	1	
	消化管疾患		8	9	11	1	5	1
	内訳	新生児嘔吐症	2	2	2	-	-	-
		胆汁性嘔吐	1	1	-	1	-	-
		血便	-	2	3	-	-	-
鎖肛		4	2	1	-	1	1	
尿道下裂		-	1	1	-	-	-	
肛門部奇形		-	1	-	-	-	-	
腹部膨満		-	-	2	-	1	-	
腹部腫瘤		-	-	-	-	2	-	
哺乳不良		1	-	2	-	-	-	
血性嘔吐		-	-	-	-	1	-	
脳・神経疾患		3	3	2	1	1	7	
内訳	脊髄髄膜瘤	-	2	-	-	-	-	
	けいれん発作	2	1	1	1	-	6	
	帽状腱膜下血腫	1	-	1	-	-	1	
	脳梗塞	-	-	-	-	1	-	

		2013	2014	2015	2016	2017	2018
染色体異常 奇形症候群		5	2	3	4	3	5
内訳	ダウン症	-	1	1	2	2	-
	奇形（症候群）	2	-	1	2	-	-
	染色体異常	-	-	-	-	-	5
	口唇口蓋裂	2	-	1	-	1	-
	仙骨部皮膚洞	1	-	-	-	-	-
	反跳膝	-	1	-	-	-	-
感染症		-	-	3	1	3	4
内訳	感染症	-	-	3	1	2	3
	梅毒疑い	-	-	-	-	1	-
	先天性サイトメガロウイルス感染症	-	-	-	-	-	1
その他		18	14	14	6	11	9
内訳	低出生体重児	6	1	3	-	-	2
	新生児仮死	2	3	4	4	3	4
	魚鱗癬	-	-	-	1	-	-
	黄疸	3	5	1	1	-	2
	甲状腺機能異常	-	1	-	-	-	-
	チアノーゼ	2	2	2	-	3	-
	インフルエンザ疑い	-	1	-	-	-	-
	多血	1	-	-	-	1	-
	低血糖	2	-	-	-	-	-
	発熱	1	-	-	-	-	-
	臍部の嚢胞	1	-	-	-	-	-
	下肢浮腫	-	1	-	-	-	-
	上腕骨骨折	-	-	-	-	1	-
	耳出血	-	-	-	-	1	-
	吐血	-	-	1	-	-	-
	性分化異常	-	-	1	-	-	-
	臀部腫瘍	-	-	1	-	-	-
	皮疹	-	-	-	-	1	-
	墜落産	-	-	-	-	1	-
	反跳膝	-	-	-	-	-	1
臍帯ヘルニア疑い	-	-	1	-	-	-	

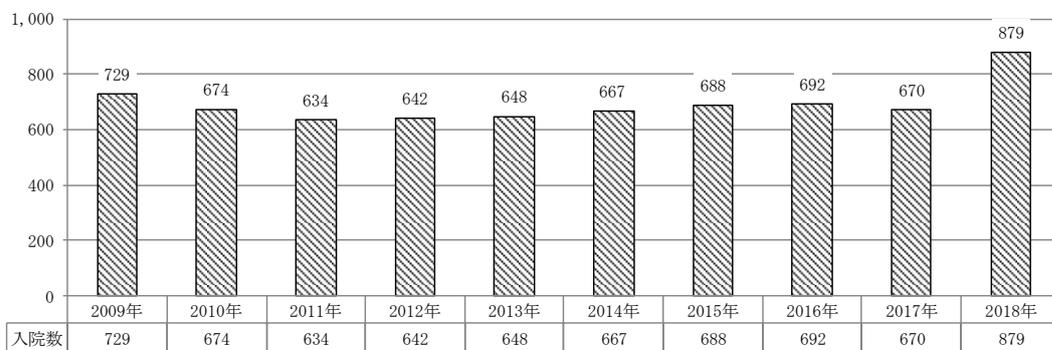
3. 奈良県総合医療センター

(1) 産科部門診療実績

◆ 入院数（例）

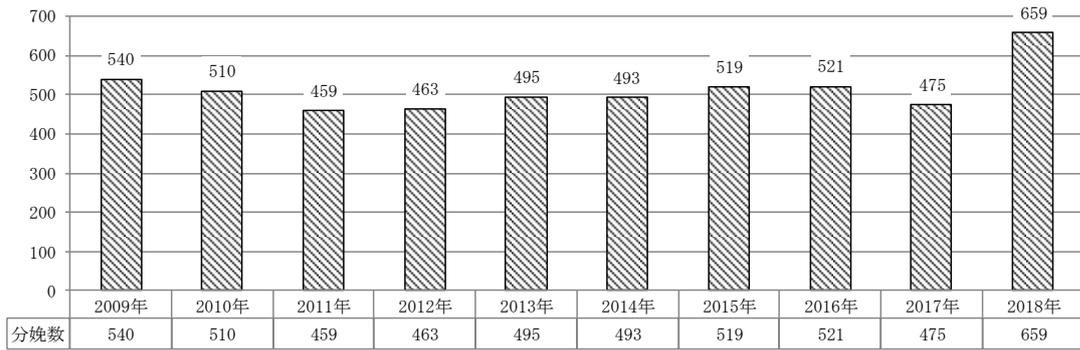
入院患者数は搬送や紹介症例の増加から、2011年以降やや増加傾向にある。産科病棟では緊急入院の受け入れおよび重症患者の増加による平均在院日数の延長を考慮し、2015年7月に病床数を26床から30床に増床した。しかし2018年の新センター移転後に分娩患者数が増加し、一時的に病棟が満床のため搬送受け入れが困難になることがあった。適正な分娩予約数について検討を行っている。

切迫早産などの診断で当センターへ母体搬送された症例は、前医での受け入れが可能となる週数まで入院管理ができた場合、患者の希望も考慮し、逆紹介により紹介元での分娩も積極的に勧めている。



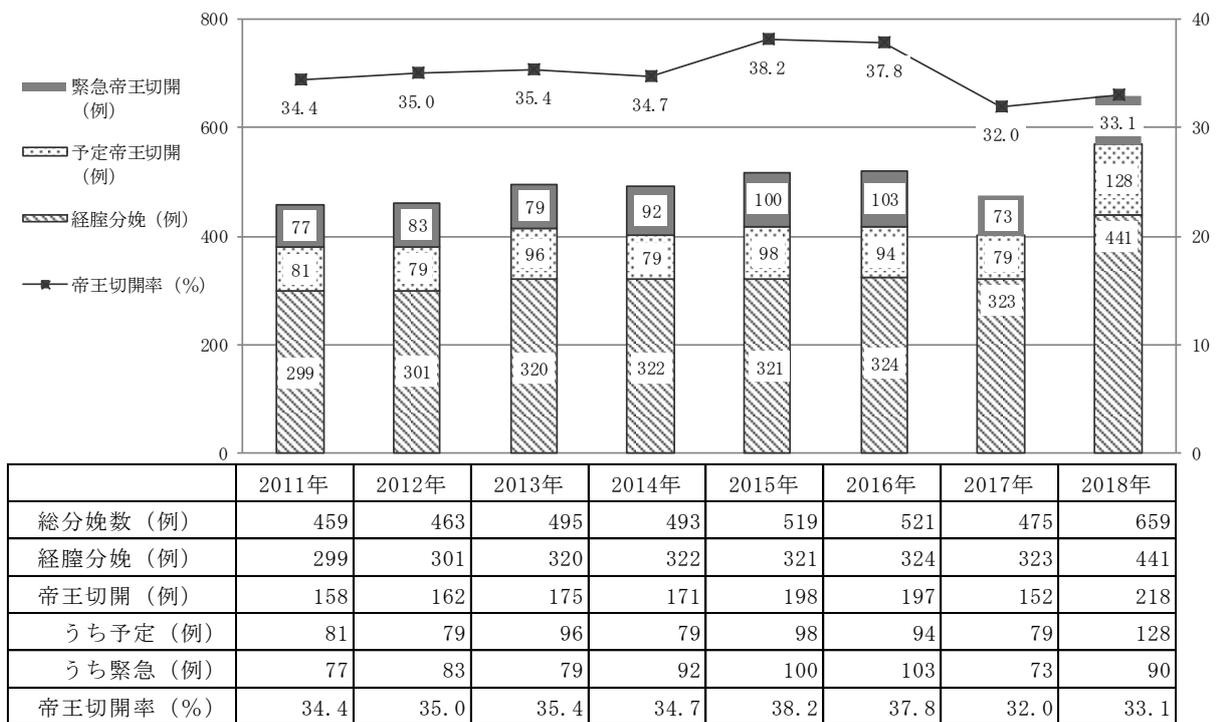
◆ 分娩数（例）

周産期センターとしての役割を考慮し、緊急やハイリスク患者への対応能力を維持する目的で分娩制限を設けている。2010年から10例/週としていたが分娩枠に余裕があることが多く、2017年までは搬送患者等の分娩も合算して約9.5件/週の分娩数であった。2018年5月に新センターに移転してから分娩予約数は12件/週に変更した。予約枠が埋まった場合、ハイリスク患者については予約数を超えても受け入れる方針としているが、ローリスク妊婦については他施設を紹介している。新センター移転直後はローリスク妊婦の分娩希望者の増加で予約が埋まり、ハイリスク妊娠は変わらず受入れたことから、分娩数は1.3倍(12.6件/週)となった。ハイリスク妊婦の状態改善や妊娠36週以降までの維持管理が達成された場合、紹介元への逆紹介を積極的に行っている。施設の役割に応じた適正な患者配分とスタッフの人的要因や病床稼働率等を考慮し、分娩予約枠は変更する可能性がある。



◆ 分娩様式

2018年の分娩様式は例年と大きな変化はない。当センターでは既往帝王切開例の分娩様式は反復帝王切開としているが、分娩予約においてはローリスク妊娠として扱っている。ハイリスク妊娠の受け入れに重点を置いているため、帝王切開率は33%と高率で、緊急帝切が41.3%を占めていた。



◆ 分娩週数 (例 死産児は除く)

2011年から当センターでは妊娠28週以降かつ児推定体重1000g以上を、奈良医大ではそれ以前や胎児奇形などを含めた重症症例を中心に受け入れることで、県内2施設のみの周産期母子医療センターの役割分担を明確化した。その結果28週未満の分娩はほとんどなくなり、NICUの適切な病床運用が可能となった。2017年は妊娠37週が最も多かったが2018年は妊娠38週がピークとなり、児の未熟性を考慮した分娩時期の設定が行われていると推測される。さらに過期産を回避する方針で妊娠管理基準を修正し、2015年以降の過期産はほぼゼロとなった。2017年の1件は飛び込み分娩であった。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
25週	-	1	-	-	-	-	-	-
26週	1	-	-	2	-	-	-	-
27週	-	-	-	-	1	2	-	-
28週	-	2	2	2	4	2	3	1
29週	2	4	2	2	1	1	-	3
30週	3	5	6	4	4	5	2	8
31週	8	5	7	4	8	7	8	9
32週	8	4	11	10	10	12	4	5
33週	10	9	9	11	14	18	15	11
34週	13	18	18	22	21	24	21	24
35週	16	20	17	28	28	32	26	39
36週	27	23	29	23	43	40	24	35
37週	63	65	101	111	114	125	107	115
38週	96	108	91	73	101	96	96	159
39週	95	98	86	116	81	101	90	120
40週	85	67	85	86	83	69	76	122
41週	28	32	29	27	32	23	19	48
42週	1	2	2	6	-	-	1	-
42週以上	-	-	-	-	-	-	-	-
不明	3	-	-	1	-	-	-	-

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

2011年から当センターでは妊娠28週以降（児推定体重1000g以上）を、奈良医大ではそれ以前を含めた症例を中心に受け入れることと取り決めた結果から、出生体重1000g未満の分娩は年間数例で推移している。1500g未満の極低出生体重児の割合は15例（8%）であった。例年の10-12%と比較し減少したが、実数は15例前後で変動はなく、新センター移転に伴うローリスク分娩数が増加したためである。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
500-999g	1	2	2	3	2	3	-	1
1,000-1,499g	13	15	15	14	15	11	15	17
1,500-1,999g	32	34	25	43	44	58	35	39
2,000-2,499g	87	79	87	91	110	114	87	120
2,500g以上	355	331	394	377	374	370	355	522
不明	4	-	-	-	-	1	-	-

◆ 出産時年齢（例）

2018年の分娩妊婦659例のうち、35歳以上は300例（45.5%）を占めている。2012年は38.4%、2013年以降も40%程度でほぼ横ばいであったが、2018年は高齢出産の割合が増加した。しかし40歳以上は2017年の10.7%に対し、2018年は11.5%と著明な増加はない。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
35歳未満	285	281	273	305	303	280	379
35-39歳	144	158	165	163	151	141	209
40-44歳	32	55	52	50	63	47	70
45歳以上	2	1	3	1	4	3	1

◆ 合併症妊娠（例）

日本産科婦人科学会の周産期登録データベースから抽出した症例数であるので、喘息や子宮筋腫核出術後などのデータベースに含まれない項目は当院で独自に集計している。今後この周産期年報における表示項目については再検討する必要があるだろう。子宮筋腫および子宮筋腫核出術後、子宮頸癌（含円錐切除後）、糖尿病（含むGDM）の合併症妊娠数は増加しているが、割合はおおむね横ばいであるため分娩総数増加の影響が考えられる。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
子宮筋腫	-	-	36	33	29	42	32	53
子宮筋腫（核出術後）	27	13	-	10	14	16	8	18
卵巣嚢腫（腫瘍）	9	2	4	5	9	5	6	8
子宮頸癌（含円錐切除後）	7	-	3	8	10	9	4	14
子宮奇形	4	4	4	1	6	1	2	6
甲状腺機能亢進症	3	2	8	9	6	12	8	15
甲状腺機能低下症	3	1	7	10	9	14	28	23
糖尿病（含むGDM）	23	11	20	27	27	29	32	43
喘息	14	3	-	-	11	9	10	13
慢性腎炎	5	-	3	2	4	0	4	3
本態性高血圧	3	1	1	7	4	5	2	5
ITP	-	-	-	-	-	-	-	4
自己免疫疾患	3	1	8	12	2	5	2	7
循環器疾患	4	1	3	2	7	-	8	4
精神科疾患（含てんかん）	14	4	14	33	24	20	34	36
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	3	-	1	2	7	-	2	-
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	7	-	2	4	4	8	2	4
その他	11	-	-	-	-	-	-	-

◆ 産科合併症（例 重複あり）

産科合併症は切迫早産や前期破水が多くを占めている。妊娠高血圧症候群、前置胎盤、常位胎盤早期剥離などの重篤な合併症の症例数は年ごとに多少の増減はあるものの傾向的ではない。しかしその割合は2017年よりも減少しているが、ローリスク分娩数の増加によるものと考えられる。

2012年から2014年までの弛緩出血の症例数が目立って多い。これは産後2時間までの出血量を500g以上とする、いわゆる分娩時多量出血の定義をもとに集計した結果である。産褥期の出血によりバイタル異常を呈した例数を意味するものではない。当院では新生児外科疾患への対応は困難であるため、消化器異常や先天性心奇形などを推測した場合は大学病院などに母体搬送している。したがって当院で分娩まで管理した胎児異常の症例数は少ない。また当院で分娩に至った症例のみに基づく結果であり、入院・外来管理後にローリスクと判断し、紹介元医療機関へ逆紹介した症例や、ローリスク・ハイリスクにかかわらず他院へ紹介・転送した症例は含まれていないことに留意されたい。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
切迫早産・前期破水	128	111	219	147	168	189	140	182
妊娠高血圧症候群	32	35	21	42	58	57	36	37
胎内胎児発育制限	21	5	13	14	35	39	28	35
多胎妊娠	34	31	30	36	34	41	24	44
前置胎盤	12	9	12	11	7	15	8	12
子癇	-	5	4	2	1	-	-	1
弛緩出血	15	97	282	136	56	62	50	21
常位胎盤早期剥離	10	11	4	8	8	7	6	5
HELLP症候群	1	3	1	-	1	2	1	1
低置胎盤	-	-	5	1	5	4	4	4
血液型不適合	-	-	6	4	6	8	8	9
羊水過多	-	-	-	1	-	2	2	3
羊水過小	-	-	2	3	7	3	2	3
胎児異常	-	-	-	-	-	4	3	1
その他	199	-	-	-	-	-	-	-

◆ 産科手術他（例）

2018年の頸管縫縮術は2例のみであった。また子宮動脈塞栓術の適応例もなかった。胎児手術や羊水除去は当センターでは以前から行っていない。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
子宮頸管縫縮術	4	3	3	5	6	1	3	2
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	5	2	12	2	2	2	3	2
産道血腫除去術	1	1	-	1	-	3	-	2
子宮動脈塞栓術	4	2	2	4	3	-	-	-
子宮摘出術	3	-	1	1	-	-	1	-
胎児胸腹水穿刺	-	-	-	-	-	-	-	-
羊水除去	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	22	-	-	-	-	-	-	-

◆ 輸血治療症例（例）

2018年は当院での分娩症例の12例に輸血を要した。産後出血での搬送症例は含まれていない。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
輸血治療症例数	27	-	14	20	33	25	24	12

◆ NICU収容症例数（例）

近年NICU収容新生児数は25%程度であったが、2017年以降は22%となっている。専門的治療が行われることは好ましい状況であると考え、NICU収容基準の変化、ハイリスク妊娠の増加、分娩週数の低下など、NICU収容新生児数の増加に影響する因子を解析し、NICU病床のより適切な運用を目指す必要がある。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
NICU収容症例数	121	145	208	227	141	147	110	155

◆ 多胎妊娠（例）

2018年の多胎妊娠は44例で、前年と比しおおむね倍加した。三胎妊娠は早産リスクや早産となった場合のNICU占拠数と入院期間の問題から当院では取り扱っておらず、奈良医大に紹介としている。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
双胎	34	31	30	37	34	41	24	44
うちMD	9	11	11	16	10	18	9	20
うちDD	25	20	19	21	24	23	15	24

◆ 母体搬送収容数（例）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

県南の母体搬送数の増加とともに当院での受け入れ数も増加し、2011年には100例を超え、2017年は150例を超えた。2018年は155例で、県内搬送依頼数の過半数である。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
母体搬送収容数	106	100	105	141	147	148	151	155

◆ 母体搬送疾患名（例 重複あり）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

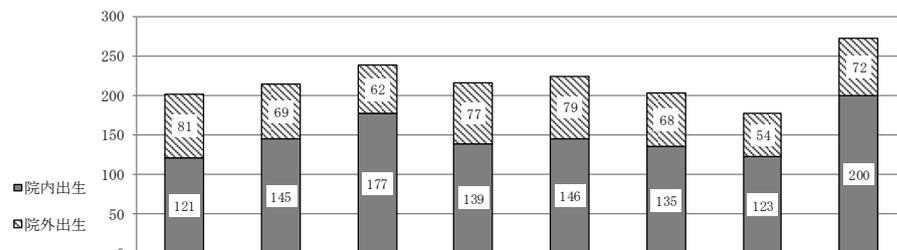
母体産褥搬送となった疾患名に大きな変動はなかった。切迫早産や前期破水が大半を占める。胎児奇形の疑いで搬送依頼があった際には、当院NICUでの対応は困難であることから奈良医大・近大奈良あるいは大阪府内の新生児外科で対応可能な病院への搬送を依頼している。妊娠高血圧症候群、産後出血、常位胎盤早期剥離、前置胎盤、HELLP症候群などの重篤例や産後出血についての搬送数は例年と著変なかった。2018年は病院が移転したためと分娩数の増加による産科病床不足から、数例の受け入れ困難例が発生した。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
切迫早産・前期破水	56	62	74	84	97	94	87	101
妊娠高血圧症候群	8	13	6	10	19	16	11	16
胎内胎児発育制限	8	5	2	1	1	4	1	-
産後出血	10	8	2	20	8	11	17	6
胎児機能不全	5	4	1	2	2	3	9	3
常位胎盤早期剥離	2	5	5	5	3	3	2	4
前置胎盤	2	5	2	1	2	2	2	6
多胎	-	-	1	4	-	-	-	-
HELLP症候群	-	3	1	2	-	-	1	2
胎児奇形	-	-	-	-	-	-	1	-
帝王切開合併症	-	-	-	-	-	-	2	-
未受診	-	-	-	-	-	-	2	-
その他	18	12	28	12	15	14	15	18

(2) 新生児部門診療実績

◆ 入院数 (例)

2018年の総入院数は272例で、院内出生は200例、院外出生は72例。2018年5月に新病院移転による病床数増加に伴い、入院数が増加している。



	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
院内出生	121	145	177	139	146	135	123	200
院外出生	81	69	62	77	79	68	54	72
合計	202	214	239	216	225	203	177	272

◆ 入院時疾患名 (例)

比較的週数のある児が多く、新生児一過性多呼吸が多い。また、啼泣後無呼吸及び哺乳時チアノーゼのスクリーニングを行っており無呼吸発作のモニタリング入院も多い。

	2013	2014	2015	2016	2017	2018
呼吸器疾患	93	70	146	101	77	100
新生児呼吸障害	-	4	-	12	1	-
新生児一過性多呼吸	38	34	82	55	52	74
重症新生児無呼吸発作	1	-	-	-	-	-
新生児無呼吸発作	38	17	8	6	6	12
新生児呼吸窮迫症候群	6	5	46	18	11	5
胎便吸引症候群	7	5	4	3	2	5
喉頭軟化症	-	2	-	-	-	-
新生児気胸、新生児緊張性気胸	2	1	1	1	3	1
新生児慢性肺疾患	-	1	-	-	-	-
新生児肺出血	1	1	4	5	2	-
縦隔気腫	-	-	-	-	-	1
誤嚥性肺炎	-	-	1	1	-	2
心・循環器疾患	1	3	4	5	7	2
新生児遷延性高血圧症	-	1	-	1	1	2
両大血管右室起始症	-	1	-	1	-	-
新生児肺動脈閉鎖症	-	1	-	-	-	-
動脈管開存症	1	-	-	1	3	-
動脈管早期閉鎖	-	-	1	-	-	-
新生児不整脈	-	-	1	-	-	-
心室中隔欠損症	-	-	1	1	1	-
Fallot四徴症	-	-	1	-	-	-
肺高血圧症	-	-	-	1	-	-
瘦肺動脈還流異常	-	-	-	-	1	-
大動脈狭窄症の疑い	-	-	-	-	1	-
消化管疾患	3	6	6	6	3	4
新生児嘔吐	1	3	5	5	-	2
哺乳障害	1	1	-	1	-	-
新生児メレナ	1	-	1	-	-	-
肥厚性幽門狭窄症	-	1	-	-	-	-
胎便栓症候群	-	1	-	-	-	-
新生児血便	-	-	-	-	1	-
胃軸捻症	-	-	-	-	1	-
体重増加不良	-	-	-	-	-	1
急性胃粘膜病変	-	-	-	-	1	1
脳・神経疾患	1	1	1	2	-	3
低酸素性脳症	1	-	-	-	-	-
新生児低酸素性虚血性脳症	-	-	-	1	-	1
新生児の筋緊張症	-	1	-	-	-	-
帽状腱膜下出血	-	-	-	-	-	-
新生児頭蓋内出血	-	-	-	-	-	-
急性硬膜下出血	-	-	-	-	-	-
先天性水頭症	-	-	-	-	-	-
新生児痙攣	-	-	1	1	-	2
染色体異常 奇形症候群	5	4	6	3	3	6
18トリソミー	2	2	-	-	-	-
21トリソミー (疑い含む)	-	-	3	1	2	4
Prader-Willi症候群	1	-	1	-	-	-
口唇口蓋裂	1	-	2	-	-	-
両側低形成腎	-	1	-	-	-	-
両側先天性水腎症	1	1	-	-	-	-
気管支肺異形成症	-	-	-	1	-	-
トリーチャ・コリンズ症候群	-	-	-	1	-	-
メンケス病の疑い	-	-	-	-	1	-
1P36欠失症候群	-	-	-	-	-	1
ルビンスタイン・タイビー症候群	-	-	-	-	-	1

次ページへつづく

	2013	2014	2015	2016	2017	2018
感染症	9	13	13	5	5	5
重症感染症の疑い	-	1	-	-	-	-
新生児感染症	-	-	7	3	2	2
新生児TSS様発疹症	1	-	2	-	-	-
ウイルス性胃腸炎	1	1	-	-	-	-
サイトメガロウイルス感染症	-	1	-	1	-	-
RSウイルス感染症	-	1	-	-	-	-
MRSA感染症	1	1	-	-	-	-
GBS感染症	-	-	3	1	-	1
子宮内感染症	-	1	-	-	-	-
リステリア症	-	1	-	-	-	-
先天梅毒疑い	-	-	1	-	-	-
菌血症	1	-	-	-	-	-
CBS敗血症	1	-	-	-	-	-
新生児敗血症 (疑いも含む)	3	2	-	-	3	-
新生児敗血症のショック	-	1	-	-	-	-
伝染性膿痂症	-	2	-	-	-	-
B群溶連菌感染症	-	-	-	-	-	1
グラム陰性桿菌敗血症	-	-	-	-	-	1
細菌性髄膜炎	1	1	-	-	-	-
その他	127	119	43	81	46	152
内訳						
低出生体重児	50	27	10	21	9	51
極低出生体重児	19	10	1	4	-	15
超低出生体重児	2	2	-	4	-	2
早産児	33	58	2	31	15	28
重症新生児仮死	2	4	-	3	5	2
新生児仮死	5	2	13	2	4	1

	2013	2014	2015	2016	2017	2018
潜在性胎児仮死	-	-	1	-	-	-
新生児重症黄疸	-	1	-	-	-	-
新生児黄疸	2	2	-	3	4	18
高ビリルビン血症	3	1	4	1	2	7
新生児低血糖	3	1	4	3	1	1
新生児一過性低血糖症	-	-	-	2	-	-
高インスリン性低血糖症	-	1	4	-	-	-
新生児低体温症	1	1	-	-	-	-
大腿骨骨幹部骨折	1	-	-	-	-	-
新生児鎖骨骨折	-	-	-	1	1	-
多血症	1	3	3	1	-	-
Rh溶血性疾患	1	-	-	-	-	-
新生児ABO不適合溶血性疾患	2	1	-	-	2	1
内訳						
胎盤輸血症候群	-	-	-	-	1	21
帝切児症候群	1	2	-	2	2	-
新生児血小板減少症	-	1	-	-	-	-
新生児脱水症	-	1	-	-	-	-
後鼻孔閉鎖症	-	1	-	-	-	-
先天性表皮水疱症の疑い	1	-	-	-	-	-
新生児臍炎	-	-	1	-	-	-
急性胃腸膜病変	-	-	-	1	-	-
甲状腺腫	-	-	-	1	-	-
甲状腺機能低下症	-	-	-	-	-	1
胎盤からの胎児出血	-	-	-	-	-	1
副腎皮質過剰形成症の疑い	-	-	-	-	-	1
新生児溶血性貧血	-	-	-	-	-	1
新生児便秘症	-	-	-	-	-	1
未熟児網膜症	-	-	-	1	-	-

◆ 出生週数 (例)

2017年に比較して新生児搬送による入院が増え、37週以上が多くなっている。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
23週	-	-	-	-	-	1	-	-
24週	-	-	-	-	-	-	-	1
25週	1	1	-	-	-	-	-	-
26週	-	-	-	2	-	3	-	-
27週	-	-	-	-	1	2	-	-
28週	1	1	4	3	6	2	3	1
29週	2	4	4	2	1	1	-	3
30週	4	8	5	3	5	3	2	9
31週	10	5	7	4	10	9	9	9
32週	8	5	12	10	14	13	4	7
33週	11	9	22	13	17	12	15	11
34週	16	18	17	23	22	22	21	24
35週	19	28	27	33	36	32	28	41
36週	18	13	13	17	16	14	9	20
37週以上	112	122	127	104	97	89	86	146

◆ 出生時体重（例）

2,500g以上と2,250-2,499g児が増加した他は、ほぼ横ばいである。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
500g未満	-	-	-	-	-	1	-	-
500-749g	1	-	-	-	-	-	-	2
750-999g	1	3	2	4	2	7	-	1
1,000-1,249g	6	6	6	6	10	6	6	9
1,250-1,499g	8	11	21	10	10	7	9	10
1,500-1,749g	16	10	24	16	23	19	11	16
1,750-1,999g	21	27	20	31	35	27	27	25
2,000-2,249g	28	26	23	31	25	29	27	35
2,250-2,499g	22	26	31	25	27	27	23	40
2,500g以上	99	105	112	93	93	80	74	134

◆ 人工呼吸器管理症例

人工呼吸管理症例数は横ばいであるが、総入院が増加しているため、人工管理症例率は低値である。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
入院数（例）	202	214	239	216	225	203	177	272
人工呼吸器管理症例数（例）	112	80	86	66	84	67	63	60
人工管理症例率（%）	55.4	37.4	36.0	30.6	37.3	33.0	35.6	22.1

◆ 外科手術（心臓、眼科、脳外科など含む）

当院は小児外科及び心臓血管外科症例対応可能施設ではないため、全症例転院しての手術である。

性別	出生週数	出生体重	疾患名	術式
男	24週	604g	超低出生体重児、鼠径ヘルニアがわかり他院でオペ。	鼠径ヘルニア手術
男	36週	2760g	新生児痙攣で受け入れたが、先天性膀胱尿管逆流がわかり他院でオペ。	前部尿道弁切除術
男	30週	1338g	極低出生体重児、動脈管開存症がわかり他院でオペ。	PDA閉鎖術

◆ 出生週数別の日齢28日以後の生存数（例）

	2013年（内訳）	2014年（内訳）	2015年（内訳）	2016年（内訳）	2017年（内訳）	2018年（内訳）
24週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	100.0（1 / 1）
25週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
26週	-（- / -）	100.0（2 / 2）	-（- / -）	100.0（3 / 3）	-（- / -）	-（- / -）
27週	-（- / -）	-（- / -）	100.0（1 / 1）	100.0（2 / 2）	-（- / -）	-（- / -）
28週	100.0（4 / 4）	100.0（3 / 3）	100.0（6 / 6）	100.0（2 / 2）	100.0（3 / 3）	100.0（1 / 1）
29週	100.0（4 / 4）	100.0（2 / 2）	100.0（1 / 1）	100.0（1 / 1）	-（0 / 0）	100.0（3 / 3）
30週	100.0（5 / 5）	100.0（3 / 3）	100.0（5 / 5）	100.0（3 / 3）	100.0（2 / 2）	100.0（9 / 9）
31週	100.0（7 / 7）	100.0（4 / 4）	100.0（10 / 10）	100.0（9 / 9）	100.0（9 / 9）	100.0（9 / 9）
32週	100.0（12 / 12）	100.0（10 / 10）	100.0（14 / 14）	100.0（3 / 3）	100.0（4 / 4）	100.0（7 / 7）
33週	100.0（22 / 22）	100.0（13 / 13）	100.0（17 / 17）	100.0（12 / 12）	100.0（15 / 15）	100.0（11 / 11）
34週	100.0（17 / 17）	100.0（23 / 23）	100.0（22 / 22）	100.0（22 / 22）	100.0（21 / 21）	100.0（24 / 24）
35週	100.0（27 / 27）	97.0（32 / 33）	100.0（36 / 36）	96.9（31 / 32）	100.0（28 / 28）	100.0（41 / 41）
36週	100.0（13 / 13）	100.0（17 / 17）	100.0（16 / 16）	100.0（14 / 14）	100.0（9 / 9）	100.0（20 / 20）
37週以上	99.2（126 / 127）	100.0（104 / 104）	97.9（95 / 97）	100.0（89 / 89）	98.8（85 / 86）	99.3（145 / 146）

内訳：各週数毎の生存数(例)/各週数毎の出生数(例)

◆ 出生体重別の日齢28日以後の生存数（例）

	2013年（内訳）	2014年（内訳）	2015年（内訳）	2016年（内訳）	2017年（内訳）	2018年（内訳）
500g未満	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
500-749g	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	100.0（2 / 2）
750-999g	100.0（2 / 2）	100.0（4 / 4）	100.0（2 / 2）	100.0（7 / 7）	-（- / -）	100.0（1 / 1）
1,000-1,249g	100.0（6 / 6）	83.3（5 / 6）	100.0（10 / 10）	100.0（6 / 6）	100.0（6 / 6）	100.0（9 / 9）
1,250-1,499g	100.0（21 / 21）	100.0（10 / 10）	100.0（10 / 10）	100.0（7 / 7）	100.0（9 / 9）	100.0（10 / 10）
1,500-1,749g	100.0（24 / 24）	100.0（16 / 16）	100.0（23 / 23）	100.0（19 / 19）	100.0（11 / 11）	100.0（16 / 16）
1,750-1,999g	100.0（20 / 20）	100.0（31 / 31）	100.0（35 / 35）	100.0（27 / 27）	96.3（26 / 27）	100.0（25 / 25）
2,000-2,249g	100.0（23 / 23）	100.0（31 / 31）	100.0（25 / 25）	96.6（28 / 29）	100.0（27 / 27）	100.0（35 / 35）
2,250-2,499g	100.0（31 / 31）	100.0（25 / 25）	100.0（27 / 27）	100.0（27 / 27）	100.0（23 / 23）	100.0（40 / 40）
2,500g以上	99.1（111 / 112）	100.0（93 / 93）	97.8（91 / 93）	100.0（80 / 80）	100.0（74 / 74）	99.3（133 / 134）

内訳：各体重毎の生存数(例)/各体重毎の出生数(例)

◆ 新生児死亡数（例）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
早期新生児死亡数(日齢7日未満の死亡)	1	1	2	-	1	-
後期新生児死亡数(日齢7日以上、日齢28日未満の死亡)	-	-	-	-	-	1

◆ 死亡例一覧

性別	出生週数	出生体重	死亡日齢	病名
男	41週	2644 g	9日	新生児仮死、新生児虚血性低酸素性脳症

◆ 新生児搬送収容数（例）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

2014年 - 79名のうち、2名は路上、自宅を含むため、病院からは実質77名

2015年 - 自宅1名含むため病院からは実質78名

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
新生児搬送収容数	12	47	81	65	62	79	78	68	56	69

◆ 新生児搬送疾患名（例 重複あり）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

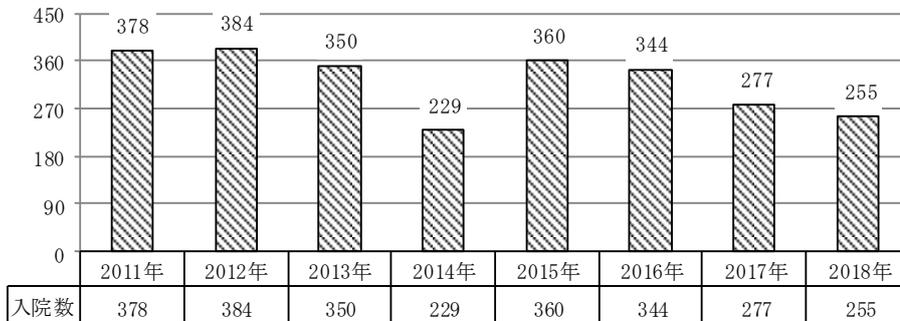
	2013	2014	2015	2016	2017	2018
呼吸器疾患	37	51	37	36	32	31
呼吸障害	-	48	3	9	-	21
新生児一過性多呼吸	15	-	31	17	27	5
新生児無呼吸発作	13	-	1	2	-	1
新生児呼吸窮迫症候群	-	-	-	2	1	-
新生児気胸、新生児緊張性気胸	1	-	1	1	2	1
喉頭蓋嚢胞	-	-	1	-	-	-
新生児肺出血	3	2	-	1	1	-
気管支肺異形成症	-	-	-	1	-	-
胎便吸引症候群	4	1	-	2	1	3
新生児肺炎	-	-	-	-	-	-
誤嚥性肺炎	-	-	-	1	-	-
咽頭軟化症	1	-	-	-	-	-
心・循環器疾患	1	2	3	3	4	5
完全大血管転位症	-	-	1	-	-	-
肺高血圧症	-	-	-	1	-	-
新生児遷延性肺高血圧症	-	-	2	1	-	-
両大血管右室起始症	-	1	-	-	-	-
総肺静脈還流異常	-	-	-	-	1	1
新生児血小板減少症	-	1	-	-	-	-
大動脈狭窄症の疑い	-	-	-	-	1	1
上室性頻拍症	-	-	-	-	-	1
動脈管開存症	1	-	-	1	2	2
消化管疾患	2	7	6	3	2	5
新生児嘔吐症	1	3	1	3	-	-
新生児メレナ	1	-	1	-	-	-
哺乳不良	-	2	3	-	-	1
哺乳障害	-	-	-	-	-	1
新生児腸回転異常の疑い	-	-	1	-	-	-
水様便	-	1	-	-	-	-
胃軸捻症	-	-	-	-	1	-
腹部膨満	-	1	-	-	-	-
新生児便秘症	-	-	-	-	-	1
膀胱尿管逆流	-	-	-	-	-	1
副腎皮質過形成症の疑い	-	-	-	-	-	1
新生児血便	-	-	-	-	1	-
脳・神経疾患	-	1	3	1	-	2
新生児痙攣	-	-	1	1	-	2
筋緊張	-	1	1	-	-	-
睡眠時ミオクローヌス	-	-	1	-	-	-

	2013	2014	2015	2016	2017	2018
染色体異常 奇形症候群	2	-	2	1	2	4
染色体異常の疑い	1	-	-	-	-	-
染色体異常	-	-	-	-	-	1
口唇口蓋裂	1	-	1	-	-	-
片側性唇顎口蓋裂	-	-	1	-	-	-
メンケス病の疑い	-	-	-	-	1	1
1p36欠失症候群 TRPV4遺伝子ナンセンス変異	-	-	-	-	-	1
ダウン症(疑い含む)	-	-	-	1	1	1
感染症	4	4	6	3	3	2
感染症	4	3	5	2	2	1
新生児感染症の疑い	-	-	-	-	-	-
新生児細菌性髄膜炎	-	-	1	-	-	-
新生児敗血症	-	1	-	-	1	-
敗血症の疑い	-	-	-	-	-	1
先天性サイトメガロウイルス感染症	-	-	-	1	-	-
その他	16	12	21	21	13	24
低出生体重児	4	2	5	1	1	5
極低出生体重児	-	-	2	1	1	1
超低出生体重児	-	-	-	3	1	1
早産児	3	2	5	5	1	-
新生児仮死	4	1	2	-	-	2
重症新生児仮死	-	-	4	3	4	-
黄疸	-	2	-	3	1	3
新生児高ビリルビン血症	1	-	-	1	1	2
低血糖	-	1	2	-	-	-
発熱	-	2	-	-	-	-
新生児ABO不適合溶血性疾患	2	-	-	-	1	-
新生児脱水症	-	1	-	-	-	-
新生児低体温症	1	-	-	-	-	-
胎便栓症候群	1	-	-	-	-	-
C B W	-	1	-	-	-	-
新生児低酸素性虚血性脳症	-	-	-	1	-	-
G B S 敗血症	-	-	-	1	-	-
心室中隔欠損症	-	-	-	1	1	-
新生児鎖骨骨折	-	-	-	1	1	-
鼠径ヘルニア	-	-	-	-	-	1
胎盤からの胎児出血	-	-	-	-	-	1
高度インスリン低血糖症	-	-	1	-	-	-
詳細不明	-	-	-	-	-	8

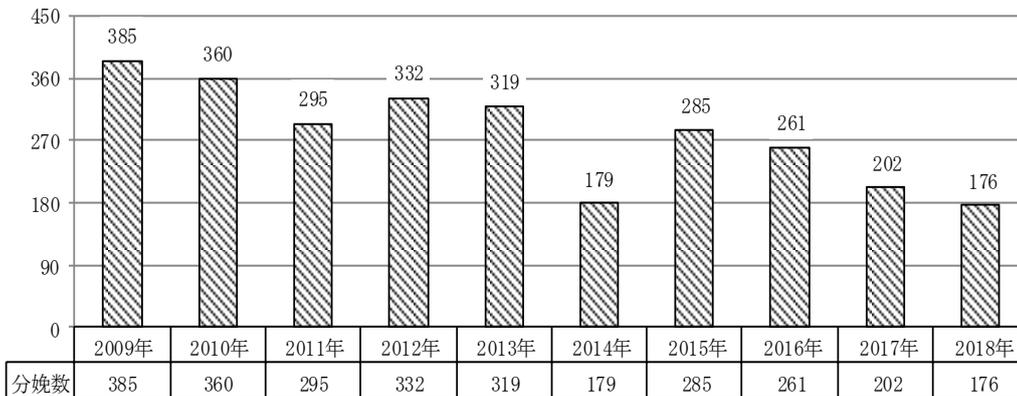
4. 近畿大学奈良病院

(1) 産科部門診療実績

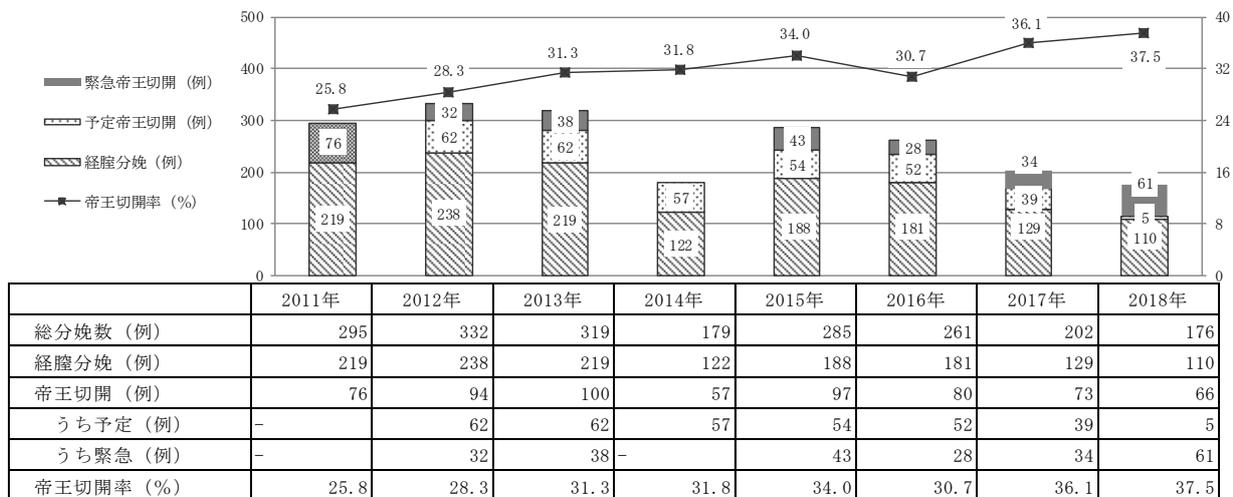
◆ 入院数 (例)



◆ 分娩数 (例)



◆ 分娩様式



◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
23週	-	-	1	-	-	-	-	-
24週	-	-	-	-	-	-	-	-
25週	-	1	-	-	-	-	-	-
26週	-	-	-	-	-	-	-	-
27週	-	-	-	-	-	-	-	-
28週	-	-	-	-	-	-	-	-
29週	-	-	-	-	-	-	-	-
30週	-	-	-	1	-	-	-	2
31週	-	-	-	-	-	-	-	-
32週	1	-	-	1	3	-	3	-
33週	-	1	1	2	1	3	1	6
34週	-	1	2	1	4	8	5	5
35週	1	2	2	-	10	4	5	6
36週	4	8	8	1	15	11	5	9
37週	39	54	44	28	34	31	24	29
38週	46	75	77	48	78	70	57	43
39週	70	70	77	32	65	56	46	36
40週	91	80	67	45	58	54	41	35
41週	37	32	39	19	17	21	15	11
42週	-	2	1	1	-	1	-	-

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

2018年 双胎：7例それぞれの出生時体重

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
500g未満	-	-	1	-	-	-	-	-
500-999g	-	1	-	-	-	-	-	-
1,000-1,499g	1	-	-	1	2	-	-	2
1,500-1,999g	1	2	3	3	6	6	6	7
2,000-2,499g	24	22	34	7	31	38	25	24
2,500g以上	264	307	281	168	246	220	172	149

◆ 出産時年齢（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
35歳未満	196	232	196	88	154	152	111	96
35-39歳	85	71	102	67	98	78	74	68
40-44歳	14	29	21	24	30	29	16	11
45歳以上	-	-	-	-	-	2	1	1

◆ 合併症妊娠（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
子宮筋腫	-	-	-	-	14	16	11	12
子宮筋腫（核出術後）	2	1	-	6	-	-	-	-
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	-	1	-	13	17	21	14
子宮頸癌（含円錐切除後）	-	-	-	4	-	-	6	-
子宮奇形	-	-	-	-	-	1	-	-
甲状腺機能亢進症	-	-	-	1	1	1	4	2
甲状腺機能低下症	-	-	-	1	6	8	13	6
糖尿病（含GDM）	1	-	-	5	12	37	21	27
喘息	-	-	-	1	11	12	12	3
慢性腎炎	-	-	-	-	-	1	-	-
本態性高血圧	-	-	-	-	-	-	-	-
I TP	-	-	-	-	2	3	2	2
自己免疫疾患	-	-	-	1	2	-	-	1
循環器疾患	-	-	-	-	4	5	6	2
精神科疾患（含てんかん）	-	-	-	-	-	3	-	2
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	-	-	-	1	3	3	-	1
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	-	-	-	1	11	11	15	1

◆ 産科合併症（例 重複あり）

2018年 切迫早産数 入院症例のみ

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
切迫早産・前期破水	3	4	24	16	18	35	90	25
妊娠高血圧症候群	6	3	10	6	15	11	9	10
胎内胎児発育制限	1	-	-	9	9	15	13	10
多胎妊娠	-	-	3	1	6	5	3	7
前置胎盤	1	4	1	1	4	-	-	4
産後出血	4	1	-	-	3	19	26	3
弛緩出血	-	-	-	-	-	2	1	3
常位胎盤早期剥離	-	5	1	-	2	2	4	1
HELLP症候群	-	-	-	-	1	1	-	-
低置胎盤	-	-	-	-	1	3	1	1
血液型不適合	-	-	-	-	1	11	9	5
羊水過多	-	-	-	1	-	5	4	1
羊水過小	-	-	-	-	-	11	10	-
胎児異常	-	-	-	11	2	8	6	4

◆ 産科手術他（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
子宮頸管縫縮術	-	1	1	1	1	1	-	-
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	-	-	1	-	-	1	-	-
産道血腫除去術	-	-	-	-	-	3	-	-

◆ 輸血治療症例（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
輸血治療症例数	-	1	-	-	-	9	5	-

◆ NICU 収容症例数（例）

	2018年
NICU収容症例数	51

うち未熟児 31 例

(※2018 年より新規集計)

◆ 多胎妊娠（例）

	2018年
双胎	7
うちMD	-
うちDD	7
うち不明	-
三胎	-

(※2018 年より新規集計)

◆ 母体搬送収容数（例）

	2018年
母体搬送収容数	8

(※2018 年より新規集計)

◆ 母体搬送疾患名（例 重複あり）

	2018年
切迫早産・前期破水	5
妊娠高血圧症候群	2
前置胎盤	1
胎児奇形	1

(※2018 年より新規集計)

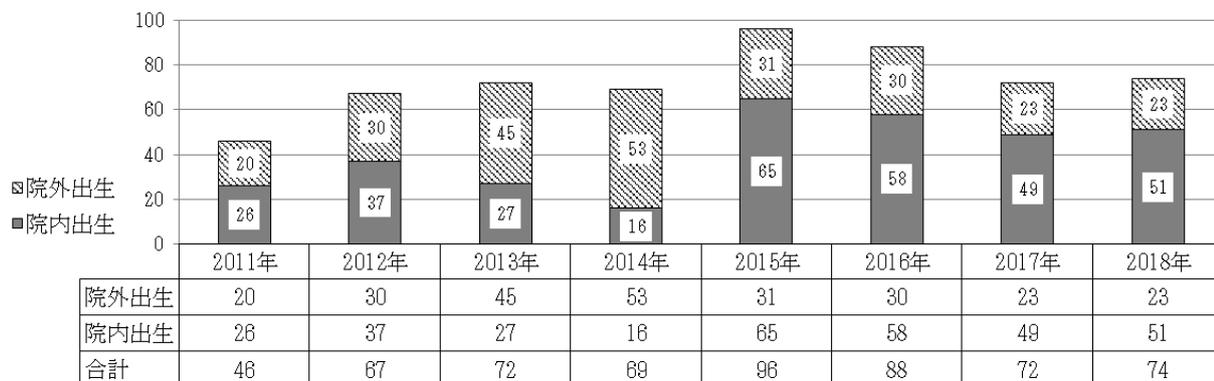
◆ 胎児異常（例）

疾患名	2018年	
	症例数	胎内診断
21トリソミー	1	-
心室中隔欠損	1	-
水腎症	1	1
鎖肛	1	1
十二指腸閉鎖	1	1
卵巣嚢腫	1	1
腹壁破裂	1	1
脳出血	1	-

(※2018 年より新規集計)

(2) 新生児部門診療実績

◆ 入院数 (例)



◆ 入院時疾患名 (例)

その他：低出生体重児・早期産児 32例、黄疸、低血糖

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
呼吸器疾患	17	19	21	20	12	12
心・循環器疾患	18	12	6	3	2	3
消化管疾患	12	16	10	12	22	17
脳・神経疾患	-	2	2	3	1	-
染色体異常 奇形症候群	-	1	3	6	3	1
感染症	9	3	6	3	3	2
その他	10	12	38	35	29	39

◆ 出生週数 (例)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
22週未満	-	2	-	-	-	-
22週	-	-	-	-	-	-
23週	-	-	-	-	-	-
24週	-	-	-	-	-	1
25週	1	-	1	-	-	-
26週	-	-	-	1	-	-
27週	-	-	-	-	-	-
28週	1	-	-	-	1	-
29週	1	-	-	-	-	-
30週	-	1	-	-	-	1
31週	-	-	-	-	-	-
32週	2	1	2	-	3	-
33週	1	1	4	3	1	6
34週	1	1	5	11	9	7
35週	2	-	13	5	5	5
36週	6	1	15	7	5	8
37週以上	57	174	56	62	48	46

◆ 出生時体重（例）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
500g未満	-	2	-	-	-	-
500-749g	-	-	-	-	-	1
750-999g	1	-	1	1	-	-
1,000-1,249g	1	1	-	-	-	-
1,250-1,499g	3	-	3	-	1	3
1,500-1,749g	3	2	1	4	5	2
1,750-1,999g	-	1	7	4	4	5
2,000-2,249g	2	4	11	15	6	7
2,250-2,499g	17	4	21	18	20	22
2,500g以上	45	167	52	46	36	34

◆ 人工呼吸器管理症例

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
入院数（例）	72	69	96	88	72	74
人工呼吸器管理症例数（例）	17	20	10	16	15	10
人工管理症例率（％）	23.6	29.0	10.4	18.2	20.8	13.5

◆ 外科手術（心臓、眼科、脳外科など含む）

性別	出生週数	出生体重	疾患名	術式
男児	39週	3,126g	腸回転異常	腸回転異常手術
男児	40週	3,092g	梨状窩瘻	膿瘍ドレナージ
男児	35週	2,880g	先天性十二指腸狭窄	十二指腸ダイヤモンド吻合
男児	37週	2,020g	十二指腸閉鎖	十二指腸ダイヤモンド吻合
男児	34週	1,700g	腹壁破裂	サイロ増設 腹壁閉鎖 腸回転異常手術

◆ 血液浄化症例

該当なし

◆ 出生週数別の日齢28日以後の生存率（％）

	2013年（内訳）	2014年（内訳）	2015年（内訳）	2016年（内訳）	2017年（内訳）	2018年（内訳）
24週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	100.0（1 / 1）
25週	100.0（1 / 1）	-（- / -）	100.0（1 / 1）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
26週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	100.0（1 / 1）	-（- / -）	-（- / -）
27週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
28週	100.0（1 / 1）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	100.0（1 / 1）	-（- / -）
29週	100.0（1 / 1）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
30週	-（- / -）	100.0（1 / 1）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	100.0（1 / 1）
31週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
32週	100.0（2 / 2）	100.0（1 / 1）	100.0（2 / 2）	-（- / -）	100.0（3 / 3）	-（- / -）
33週	100.0（1 / 1）	100.0（1 / 1）	100.0（4 / 4）	100.0（3 / 3）	100.0（1 / 1）	100.0（6 / 6）
34週	100.0（1 / 1）	100.0（1 / 1）	80.0（4 / 5）	100.0（11 / 11）	100.0（9 / 9）	100.0（7 / 7）
35週	100.0（2 / 2）	-（- / -）	100.0（13 / 13）	80.0（4 / 5）	100.0（5 / 5）	100.0（5 / 5）
36週	100.0（6 / 6）	100.0（1 / 1）	93.3（14 / 15）	100.0（7 / 7）	100.0（5 / 5）	100.0（8 / 8）
37週以上	98.2（56 / 57）	100.0（174 / 174）	98.2（55 / 56）	100.0（62 / 62）	97.9（47 / 48）	100.0（46 / 46）

内訳：各週数毎の生存数(例)/各週数毎の出生数(例)

◆ 出生体重別の日齢28日以後の生存率 (%)

	2013年 (内訳)	2014年 (内訳)	2015年 (内訳)	2016年 (内訳)	2017年 (内訳)	2018年 (内訳)
500g未満	- (- / -)	0.0 (0 / 2)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
500-749g	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	100.0 (1 / 1)
750-999g	100.0 (1 / 1)	0.0 (0 / 1)	100.0 (1 / 1)	100.0 (1 / 1)	- (- / -)	- (- / -)
1,000-1,249g	100.0 (1 / 1)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
1,250-1,499g	100.0 (3 / 3)	- (- / -)	33.3 (1 / 3)	- (- / -)	100.0 (1 / 1)	100.0 (3 / 3)
1,500-1,749g	100.0 (3 / 3)	100.0 (2 / 2)	100.0 (1 / 1)	100.0 (4 / 4)	100.0 (5 / 5)	100.0 (2 / 2)
1,750-1,999g	- (- / -)	100.0 (1 / 1)	100.0 (7 / 7)	100.0 (4 / 4)	75.0 (3 / 4)	100.0 (5 / 5)
2,000-2,249g	100.0 (2 / 2)	100.0 (4 / 4)	100.0 (11 / 11)	93.3 (14 / 15)	100.0 (6 / 6)	100.0 (7 / 7)
2,250-2,499g	100.0 (17 / 17)	100.0 (4 / 4)	100.0 (21 / 21)	100.0 (18 / 18)	100.0 (20 / 20)	100.0 (22 / 22)
2,500g以上	97.8 (44 / 45)	100.0 (167 / 167)	98.1 (51 / 52)	100.0 (46 / 46)	100.0 (36 / 36)	100.0 (34 / 34)

内訳：各体重毎の生存数(例)/各体重毎の出生数(例)

◆ 新生児死亡数 (例)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
早期新生児死亡数(日齢7日未満の死亡)	-	1	1	1	-	-
後期新生児死亡数(日齢7日以上、日齢28日未満の死亡)	1	-	2	-	1	-

◆ 死亡例一覧

該当なし

◆ 新生児搬送収容数 (例) <奈良県周産期医療情報システムより集計>

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
新生児搬送収容数	18	5	6	7	20	15	20	24	23	10

◆ 新生児搬送疾患名 (例 重複あり) <奈良県周産期医療情報システムより集計>

	2013	2014	2015	2016	2017	2018
呼吸器疾患	7	8	9	12	5	1
呼吸障害	6	8	8	6	1	-
新生児一過性多呼吸	1	-	1	2	-	-
多呼吸	-	-	-	2	-	-
胎便吸引症候群	-	-	-	1	-	-
新生児気胸	-	-	-	-	3	-
気切	-	-	-	-	1	-
SpO2低下	-	-	-	-	-	1
喉頭蓋嚢胞	-	-	-	1	-	-
心・循環器疾患	6	3	1	2	1	-
心疾患	1	-	-	-	-	-
心雑音	3	1	-	1	-	-
肺高血圧症	-	-	-	1	-	-
ファロー四徴症	-	-	1	-	-	-
心室中隔欠損 (VSD)	1	-	-	-	-	-
不整脈	-	1	-	-	1	-
心内膜症欠損	1	-	-	-	-	-
単心室	-	1	-	-	-	-
消化管疾患	5	4	7	6	13	6
胆汁性嘔吐	2	-	2	-	1	-
血性嘔吐	-	-	1	-	-	-
嘔吐	-	1	1	-	2	2
哺乳緩慢	-	-	-	1	-	-
哺乳不良	2	-	-	1	1	2
新生児メレナ	-	-	1	-	-	-
血便	-	1	-	-	2	1
鎖腸	-	-	1	-	-	-
鎖肛	-	-	-	1	-	-
腹壁破裂	1	-	-	-	-	-
腹部膨満	-	2	1	2	1	-
胃出血	-	-	-	-	1	-
ヒルシュスブルグ病疑い	-	-	-	-	2	1
ヒルシュスブルグ病根治術目的	-	-	-	-	-	-
腸回転異常症の疑い	-	-	-	-	1	-
消化管閉鎖の疑い	-	-	-	-	-	-
消化管狭窄疑い	-	-	-	1	-	-
横隔膜ヘルニア	-	-	-	-	1	-
滞便イリウス	-	-	-	-	1	-

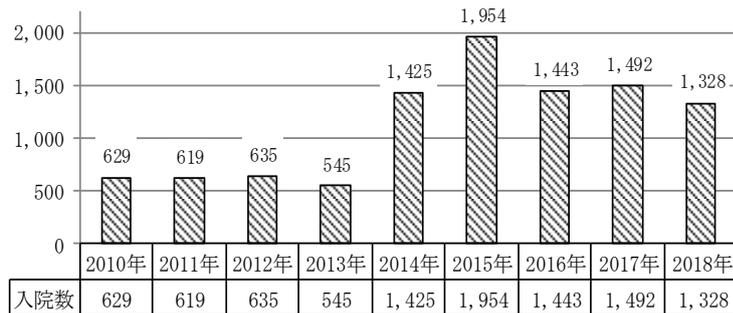
	2013	2014	2015	2016	2017	2018
染色体異常 奇形症候群	4	1	3	1	2	-
染色体異常	1	-	-	-	1	-
ダウン症の疑い	3	1	2	1	-	-
口唇口蓋裂	-	-	1	-	1	-
感染症	1	-	1	-	-	-
感染症	1	-	1	-	-	-
その他	6	3	2	9	3	5
黄疸	2	-	-	1	-	1
新生児仮死	2	-	1	-	-	-
重傷新生児仮死	-	-	-	1	-	-
超低出生体重児	-	-	-	1	-	-
極低出生体重児	-	-	-	-	-	1
低出生体重児	-	-	-	-	-	2
活気不良	1	-	-	-	-	-
チアノーゼ	1	1	-	-	-	-
日令2からのタール便持続	-	1	-	-	-	-
発熱	-	1	1	1	-	-
下血	-	-	-	-	-	-
21トリソミー疑い	-	-	-	1	-	-
VSD検査	-	-	-	1	-	-
先天性表皮水疱症うたがい	-	-	-	1	-	-
新生児転院のため搬送	-	-	-	1	-	-
体重増加不良	-	-	-	-	-	1
新生児痙攣	-	-	-	-	-	1
トリーチャー・コリンズ症候群	-	-	-	-	1	-
詳細不明	-	-	-	1	-	1

5. 天理よろづ相談所病院

(1) 産科部門診療実績

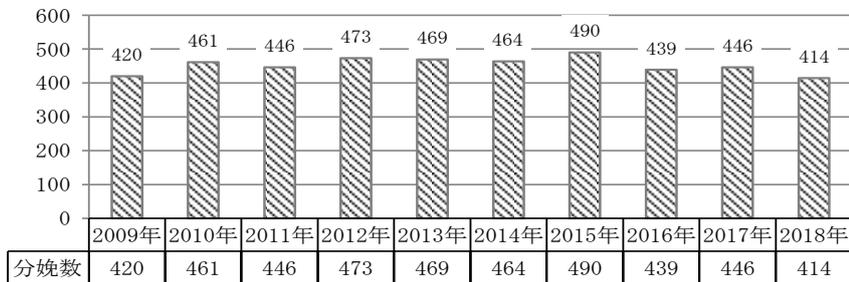
◆ 入院数 (例)

2014年度より産科・婦人科合同で1病棟となったため、産科のみの年間入院数は算出不可能。そのため2014年からは産科・婦人科を合わせた件数を掲載している。2018年の入院数は、前年に比べて分娩件数も減少があったことも影響していると思われる。



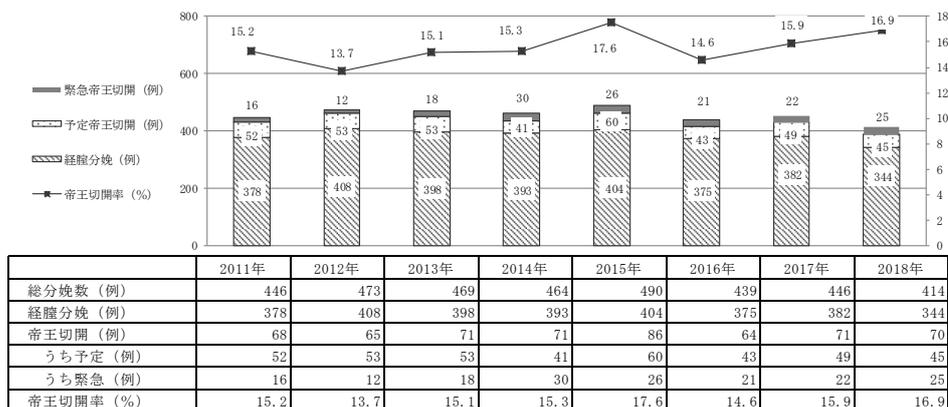
◆ 分娩数 (例)

昨年と比べて減少。



◆ 分娩様式

帝王切開率はここ15～17%程度で推移している。昨年と比べて緊急帝王切開が増えたことにより帝王切開率はすこし上昇。



◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

当院ではNICUがないため35週未満で分娩となりそうな症例は他院に母体搬送の方針としているが、2018年は34週での院内出生が1例あり。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
34週	2	-	1	-	1	3	-	1
35週	5	6	8	10	7	4	3	3
36週	19	8	9	15	15	15	14	10
37週	76	83	38	56	39	29	50	59
38週	128	118	151	121	138	107	112	107
39週	123	163	146	137	151	98	140	132
40週	83	77	92	99	101	135	97	89
41週	11	18	21	21	28	30	29	15
42週	-	-	-	-	1	-	-	-

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
1,500-1,999g	2	4	7	4	2	6	2	1
2,000-2,499g	41	46	46	41	46	27	33	31
2,500g以上	403	423	413	414	433	403	411	384

◆ 出産時年齢（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
35歳未満	329	355	337	343	345	306	304	295
35-39歳	96	88	120	96	118	109	114	92
40-44歳	19	30	11	25	27	17	26	27
45歳以上	2	-	1	-	-	1	1	-

◆ 合併症妊娠（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
子宮筋腫	25	19	20	18	14	15	10	5
子宮筋腫（核出術後）	-	-	4	3	6	2	2	-
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	2	1	-	-	10	11	5
子宮頸癌（含円錐切除後）	-	3	1	-	-	3	-	-
子宮奇形	-	1	3	1	-	-	4	-
甲状腺機能亢進症	11	17	15	13	16	11	4	4
甲状腺機能低下症	4	-	-	6	-	4	4	1
糖尿病（含GDM）	16	15	28	27	6	33	30	17
喘息	11	16	14	13	15	8	4	2
慢性腎炎	-	-	-	-	-	-	1	-
本態性高血圧	-	-	1	1	-	-	1	-
ITP	2	1	-	1	-	-	1	-
自己免疫疾患	4	5	4	6	6	6	7	1
循環器疾患	3	12	3	6	2	3	6	3
精神科疾患（含てんかん）	4	6	10	10	3	7	7	3
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	-	2	1	-	-	2	-	-
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	-	-	-	1	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	7	-	-

◆ 産科合併症（例 重複あり）

「産後出血」は定義不明なため2015年より未集計としています。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
切迫早産・前期破水	139	128	132	142	152	113	93	41
妊娠高血圧症候群	12	18	18	18	16	14	7	4
胎内胎児発育制限	11	34	11	7	10	3	4	6
多胎妊娠	2	6	6	3	5	3	3	2
前置胎盤	2	1	1	-	2	1	4	-
産後出血	111	101	115	96	-	-	-	-
子癇	-	-	-	-	-	-	-	1
弛緩出血	-	-	-	-	-	-	44	21
常位胎盤早期剥離	11	1	1	4	4	1	4	-
HELLP症候群	-	1	-	-	-	-	-	2
低置胎盤	-	-	3	2	1	2	-	2
血液型不適合	-	-	-	-	-	-	-	-
羊水過多	-	-	2	-	-	-	-	-
羊水過小	-	-	-	4	4	-	1	1
胎児異常	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	5	-	-	-	-	5	-	-

◆ 産科手術他（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
子宮頸管縫縮術	9	4	7	6	12	10	2	3
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	3	2	1	-	-	1	-	1
産道血腫除去術	-	1	-	-	-	-	1	1
子宮動脈塞栓術	-	-	-	1	1	-	-	-
子宮摘出術	-	-	-	2	-	1	1	-
胎児胸腹水穿刺	-	-	-	-	-	-	-	-
羊水除去	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-

◆ 輸血治療症例（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
輸血治療症例数	1	-	3	3	1	2	5	1

◆ 多胎妊娠（例）

	2018年
双胎	2
うちMD	-
うちDD	2
うち不明	-
三胎	-

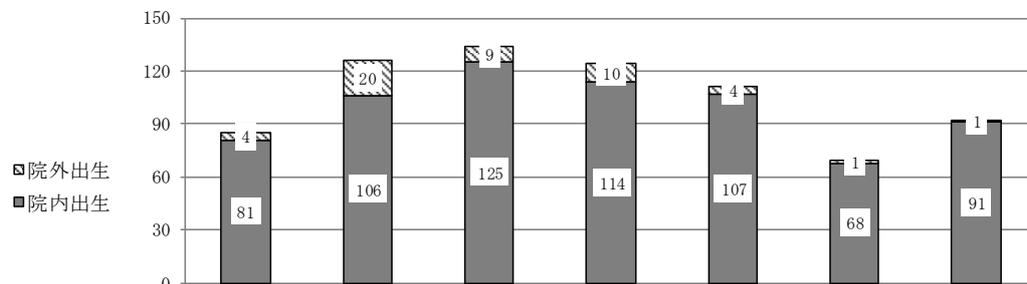
(※2018年より新規集計)

◆ 胎児異常（例）

該当なし

(2) 新生児部門診療実績

◆ 入院数 (例)



	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
院内出生	81	106	125	114	107	68	91
院外出生	4	20	9	10	4	1	1
合計	85	126	134	124	111	69	92

◆ 入院時疾患名 (例)

		2013	2014	2015	2016	2017	2018
呼吸器疾患		34	47	82	72	35	44
内 訳	一過性多呼吸	-	-	-	37	19	20
	呼吸障害	-	-	-	27	14	19
	気胸(軽症)	-	-	-	8	2	5
心・循環器疾患		7	5	4	3	2	-
	先天性心疾患	-	-	-	3	2	-
消化管疾患		10	3	5	1	1	-
	ミルクアレルギー	-	-	-	1	1	-
神経疾患		8	13	5	1	-	3
染色体異常 奇形症候群		2	1	2	1	-	3
	ダウン症候群	-	-	-	1	-	2
感染症		12	32	2	35	14	17
内 訳	MAS(軽症)	-	-	-	2	1	3
	不明感染症	-	-	-	33	13	13
	GBS感染	-	-	-	-	-	1
その他		53	33	24	29	20	29
内 訳	特発性黄疸	-	-	-	23	14	17
	仮死	-	-	-	6	6	9
	高インスリン血症性血糖症	-	-	-	-	-	3

(※2013～2015年は疾患内訳未集計)

◆ 出生週数（例）

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
26週	-	1	-	-	-	-	-
27週	-	-	-	-	-	-	-
28週	-	-	-	-	-	-	-
29週	-	-	-	-	-	-	-
30週	-	1	-	-	-	-	-
31週	-	-	-	-	-	-	-
32週	-	-	-	-	-	-	-
33週	-	-	-	-	2	-	-
34週	-	1	-	1	4	-	1
35週	4	9	11	6	3	4	3
36週	4	5	9	7	11	12	4
37週以上	77	109	114	110	91	52	84

◆ 出生時体重（例）

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
500g未満	-	1	-	-	-	-	-
500-749g	-	-	-	-	-	-	-
750-999g	-	-	-	-	-	-	-
1,000-1,249g	-	-	-	-	-	-	-
1,250-1,499g	-	1	-	-	-	-	-
1,500-1,749g	1	1	-	-	2	-	-
1,750-1,999g	3	5	4	3	4	2	1
2,000-2,249g	10	8	5	10	7	4	6
2,250-2,499g	10	15	18	16	11	8	13
2,500g以上	61	95	107	95	85	54	72

◆ 人工呼吸器管理症例

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
入院数（例）	85	126	134	124	111	68	92
人工呼吸器管理症例数（例）	2	0	0	0	4	2	0
人工管理症例率（％）	2.4	0.0	0.0	0.0	3.6	2.9	0.0

◆ 外科手術（心臓、眼科、脳外科など含む）

該当なし

◆ 血液浄化症例

該当なし

◆ 出生週数別の日齢28日以後の生存数（例）

	2013年（内訳）	2014年（内訳）	2015年（内訳）	2016年（内訳）	2017年（内訳）	2018年（内訳）
26週	0.0（0 / 1）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
27週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
28週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
29週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
30週	100.0（1 / 1）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
31週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
32週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
33週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	100.0（2 / 2）	-（- / -）	-（- / -）
34週	100.0（1 / 1）	-（- / -）	100.0（1 / 1）	100.0（4 / 4）	-（- / -）	100.0（1 / 1）
35週	100.0（9 / 9）	100.0（11 / 11）	100.0（6 / 6）	100.0（3 / 3）	100.0（4 / 4）	100.0（3 / 3）
36週	100.0（5 / 5）	100.0（9 / 9）	100.0（7 / 7）	100.0（11 / 11）	100.0（12 / 12）	100.0（4 / 4）
37週以上	100.0（109 / 109）	100.0（114 / 114）	100.0（110 / 110）	100.0（91 / 91）	100.0（52 / 52）	98.8（83 / 84）

内訳：各週数毎の生存数(例)/各週数毎の出生数(例)

◆ 出生体重別の日齢28日以後の生存数（例）

	2013年（内訳）	2014年（内訳）	2015年（内訳）	2016年（内訳）	2017年（内訳）	2018年（内訳）
500g未満	0.0（0 / 1）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
500-749g	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
750-999g	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
1,000-1,249g	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
1,250-1,499g	100.0（1 / 1）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
1,500-1,749g	100.0（1 / 1）	-（- / -）	-（- / -）	100.0（2 / 2）	-（- / -）	-（- / -）
1,750-1,999g	100.0（5 / 5）	100.0（4 / 4）	100.0（3 / 3）	100.0（4 / 4）	100.0（2 / 2）	100.0（1 / 1）
2,000-2,249g	100.0（8 / 8）	100.0（5 / 5）	100.0（10 / 10）	100.0（7 / 7）	100.0（4 / 4）	100.0（6 / 6）
2,250-2,499g	100.0（15 / 15）	100.0（18 / 18）	100.0（16 / 16）	100.0（11 / 11）	100.0（8 / 8）	100.0（13 / 13）
2,500g以上	100.0（95 / 95）	100.0（107 / 107）	100.0（95 / 95）	100.0（85 / 85）	100.0（54 / 54）	98.6（71 / 72）

内訳：各体重毎の生存数(例)/各体重毎の出生数(例)

◆ 新生児死亡数（例）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
早期新生児死亡数(日齢7日未満の死亡)	1	-	-	-	-	1
後期新生児死亡数(日齢7日以上、日齢28日未満の死亡)	-	-	-	-	-	-

◆ 死亡例一覧

性別	出生週数	出生体重	死亡日齢	病名
男	41週	3,144g	0日	胎児機能不全

◆ 新生児搬送収容数（例）

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
新生児搬送収容数	-	-	-	-	22	9	10	4	1	1

◆ 新生児搬送疾患名（例 重複あり）

1名。産院より生後4日目にチアノーゼを認めると紹介。

	2013	2014	2015	2016	2017	2018
呼吸器疾患	6	4	4	1	1	-
内訳						
呼吸障害	6	4	4	-	1	-
肺炎	-	-	-	1	-	-
脳・神経疾患	2	-	-	-	-	-
痙攣うたがい	2	-	-	-	-	-
消化管疾患	2	3	2	-	-	-
内訳						
哺乳不良	1	3	1	-	-	-
メレナ疑い	1	-	-	-	-	-
血性嘔吐	-	-	1	-	-	-
その他	4	-	1	-	-	1
内訳						
チアノーゼ	-	-	1	-	-	1
低体重、双子	3	-	-	-	-	-
湿疹(水疱)	1	-	-	-	-	-

	2013	2014	2015	2016	2017	2018
心・循環器疾患	3	2	3	5	-	-
内訳						
心雑音	1	-	-	-	-	-
心疾患疑い	2	-	-	-	-	-
ファロー	-	-	2	-	-	-
VSD	-	-	1	-	-	-
徐脈発作	-	1	-	-	-	-
不整脈	-	1	-	-	-	-
完全大血管転移	-	-	-	1	-	-
両大血管右室起始	-	-	-	1	-	-
房室中隔欠損	-	-	-	2	-	-
肺動脈狭窄	-	-	-	1	-	-
感染症	3	-	-	-	-	-
感染	3	-	-	-	-	-

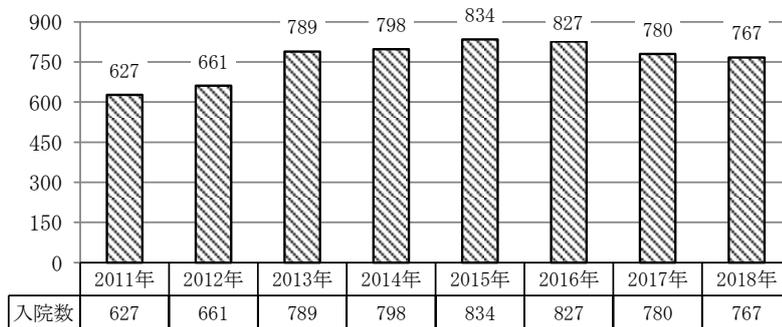
6. 県内分娩取扱病院

(1) 市立奈良病院

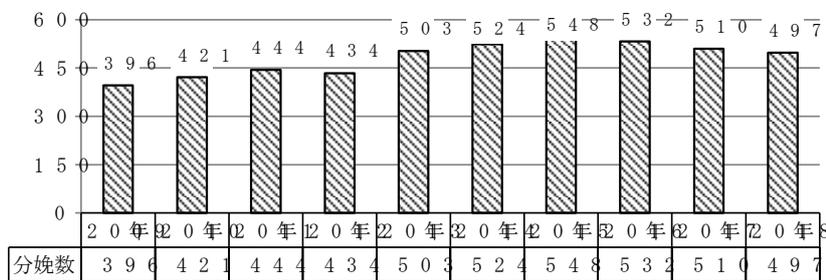
①産科部門診療実績

◆ 入院数 (例)

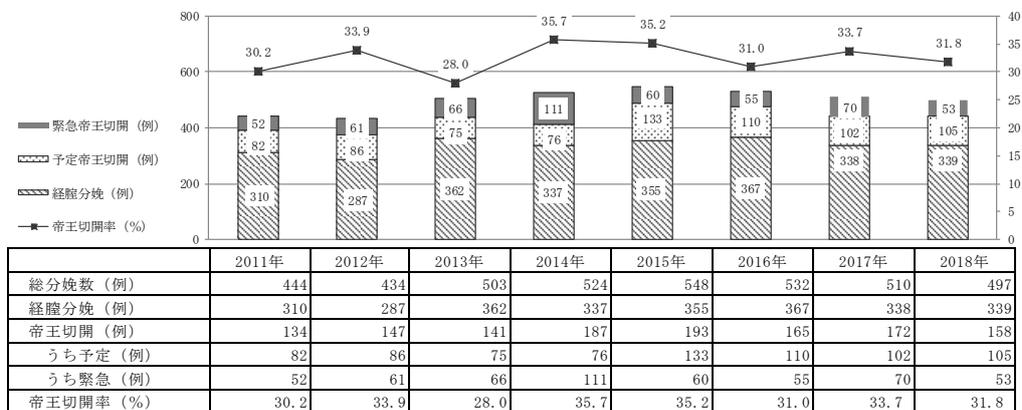
入院DPC情報より、ICDコードの000-099妊娠、分娩及び産褥が主病名で入院した患者数を入力しています。



◆ 分娩数 (例)



◆ 分娩様式



◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
35週	1	1	1	3	-	-	3	-
36週	13	14	13	25	17	24	18	21
37週	67	44	46	52	70	65	63	62
38週	100	121	140	132	157	145	146	129
39週	108	125	132	142	137	158	124	137
40週	110	96	128	113	136	115	125	99
41週	34	27	40	39	30	24	28	42
42週	1	2	1	-	-	-	1	-

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
1,500-1,999g	-	-	-	1	2	1	1	1
2,000-2,499g	27	20	35	26	34	32	35	33
2,500g以上	409	410	466	485	511	497	472	456

◆ 出産時年齢（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
35歳未満	328	324	391	383	394	395	373	368
35-39歳	80	85	89	108	121	112	107	100
40-44歳	15	21	21	23	33	25	28	27
45歳以上	-	-	-	1	-	-	2	2

◆ 合併症妊娠（例）

2014年から、日産婦のデータベースより抽出したため、症例数が大幅に増加しています。2014年以前では、合併症妊婦を手作業で集計していたため、正確にカウントできていなかったと考えられます。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
子宮筋腫	8	7	25	20	23	26	14
子宮筋腫（核出術後）	-	-	5	2	-	-	-
卵巣嚢腫（腫瘍）	1	1	9	11	11	6	11
子宮頸癌（含円錐切除後）	4	1	1	8	-	2	3
子宮奇形	-	-	-	2	4	1	5
甲状腺機能亢進症	1	2	6	5	4	3	5
甲状腺機能低下症	1	2	8	7	9	10	8
糖尿病（含GDM）	5	5	10	19	16	30	17
喘息	5	1	12	11	23	9	15
慢性腎炎	-	-	-	1	6	-	2
本態性高血圧	1	-	2	3	1	3	1
自己免疫疾患	-	-	-	2	3	1	2
循環器疾患	1	-	1	2	3	2	2
精神科疾患（含てんかん）	-	1	7	6	2	11	8
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	-	2	3	1	3	-	1
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	1	-	1	3	4	-	5
その他	-	-	-	-	4	-	-

◆ 産科合併症（例 重複あり）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
切迫早産・前期破水	-	58	73	63	61	205	201	272
妊娠高血圧症候群	1	10	13	28	16	9	9	18
胎内胎児発育制限	2	11	28	18	19	24	35	28
多胎妊娠	2	-	-	-	1	3	2	2
前置胎盤	-	-	-	-	-	-	1	1
産後出血	3	17	26	14	12	-	16	34
子癇	-	-	-	-	-	-	-	1
弛緩出血	-	-	-	-	-	10	10	33
常位胎盤早期剥離	1	1	-	2	1	-	2	1
HELLP症候群	-	-	-	4	-	-	1	-
低置胎盤	-	-	-	1	3	1	-	-
血液型不適合	-	-	-	7	6	11	4	3
羊水過多	-	-	-	-	1	2	-	1
羊水過小	-	-	-	5	6	6	1	3
胎児異常	-	-	-	1	1	6	3	1
その他	-	-	-	3	-	-	-	-

◆ 産科手術他（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
子宮頸管縫縮術	5	5	2	8	6	14	5	5
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	3	3	1	-	1	-	-	2
産道血腫除去術	2	2	1	1	2	-	3	-
子宮動脈塞栓術	1	1	-	2	1	-	1	2
子宮摘出術	-	-	-	-	1	-	-	-
胎児胸腹水穿刺	-	-	-	-	-	-	-	-
羊水除去	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-

◆ 輸血治療症例（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
輸血治療症例数	2	2	2	2	3	1	3	2

◆ 多胎妊娠（例）

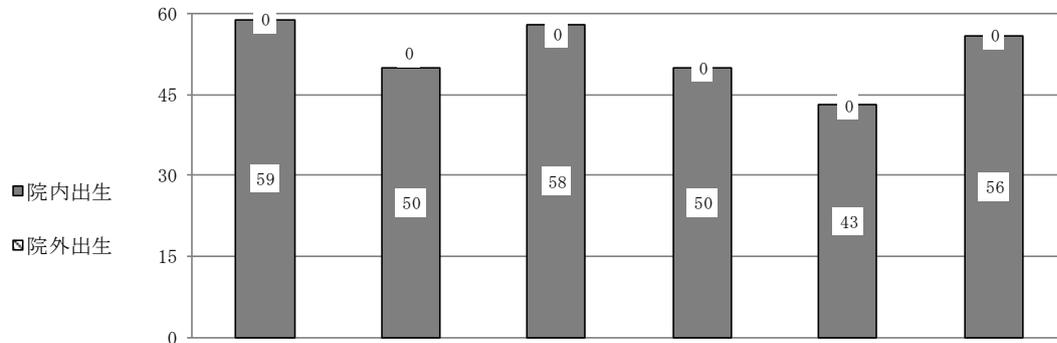
	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
双胎	2	-	-	-	1	3	2	2
うちMD	-	-	-	-	-	-	-	-
うちDD	2	-	-	-	1	3	2	2

◆ 胎児異常（例）

該当なし

②新生児部門診療実績

◆ 入院数（例）



	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
院内出生	59	50	58	50	43	56
院外出生	-	-	-	-	-	-
合計	59	50	58	50	43	56

◆ 入院時疾患名（例）

発症当日に転院搬送となった症例は含んでいません。呼吸器疾患は主に新生児一過性多呼吸、消化器疾患は嘔吐です。その他の多くは新生児黄疸で低血糖などがそれに続きます。

		2013	2014	2015	2016	2017	2018
呼吸器疾患		8	18	12	16	11	10
内 訳	新生児一過性多呼吸	-	-	-	-	-	6
	無呼吸発作	-	-	-	-	-	2
	胎便吸引症候群	-	-	-	-	-	1
	気胸（軽症）	-	-	-	-	-	1
心・循環器疾患		-	-	-	2	-	-
消化管疾患		4	1	5	4	7	4
内 訳	吐血	-	-	-	-	-	3
	嘔吐症	-	-	-	-	-	1
神経疾患		8	13	5	1	-	2

		2013	2014	2015	2016	2017	2018
染色体異常 奇形症候群		-	-	-	-	-	-
感染症		5	1	2	4	3	5
内 訳	新生児感染症	-	-	-	-	-	4
	梨状窩瘻	-	-	-	-	-	1
その他		41	30	39	24	20	35
内 訳	新生児黄疸	-	-	-	27	17	21
	哺乳不良・体重減少	-	-	-	-	-	4
	新生児仮死	-	-	-	-	-	3
	低血糖症	-	-	4	2	-	3
	その他	-	-	8	5	-	4

（2013～2017年：疾患内訳は一部未集計）

◆ 出生週数（例）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
35週	1	1	-	-	3	-
36週	5	11	8	6	4	10
37週以上	53	38	50	44	36	46

◆ 出生時体重（例）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
1,500g～1,749g	-	1	-	-	-	-
1,750g～1,999g	-	-	2	-	1	1
2,000g～2,249g	5	2	4	1	-	2
2,250g～2,499g	4	6	6	5	4	4
2,500g以上	50	41	46	44	38	49

◆ 人工呼吸器管理症例

該当なし

Nasal high flow など非侵襲的な呼吸補助は含めていません。

◆ 外科手術（心臓、眼科、脳外科など含む）

該当なし

◆ 血液浄化症例

該当なし

◆ 出生週数別の日齢28日以後の生存数（例）

	2018年（内訳）
22週	-（ - / - ）
23週	-（ - / - ）
24週	-（ - / - ）
25週	-（ - / - ）
26週	-（ - / - ）
27週	-（ - / - ）
28週	-（ - / - ）
29週	-（ - / - ）
30週	-（ - / - ）
31週	-（ - / - ）
32週	-（ - / - ）
33週	-（ - / - ）
34週	-（ - / - ）
35週	-（ - / - ）
36週	100.0（ 10 / 10 ）
37週以上	100.0（ 46 / 46 ）

◆ 出生体重別の日齢28日以後の生存数（例）

	2018年（内訳）
500g未満	-（ - / - ）
500-749g	-（ - / - ）
750-999g	-（ - / - ）
1,000-1,249g	-（ - / - ）
1,250-1,499g	-（ - / - ）
1,500-1,749g	-（ - / - ）
1,750-1,999g	100.0（ 1 / 1 ）
2,000-2,249g	100.0（ 2 / 2 ）
2,250-2,499g	100.0（ 4 / 4 ）
2,500g以上	100.0（ 49 / 49 ）

◆ 新生児死亡数（例）

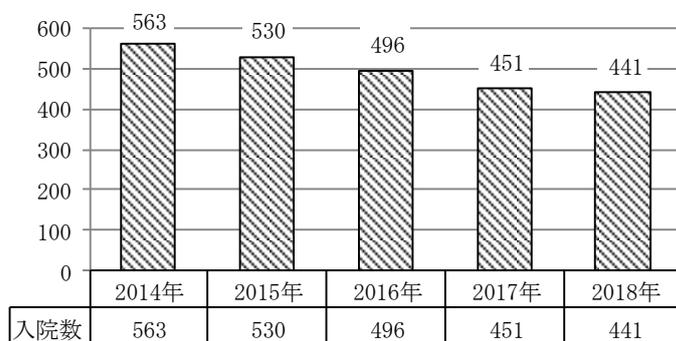
	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
早期新生児死亡数（日齢7日未満の死亡）	-	-	-	-	-	-
後期新生児死亡数（日齢7日以上、日齢28日未満の死亡）	-	-	-	-	-	-

◆ 死亡例一覧

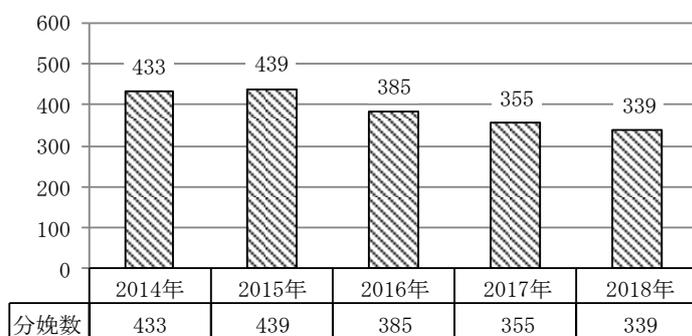
該当なし

(2) 大和郡山病院

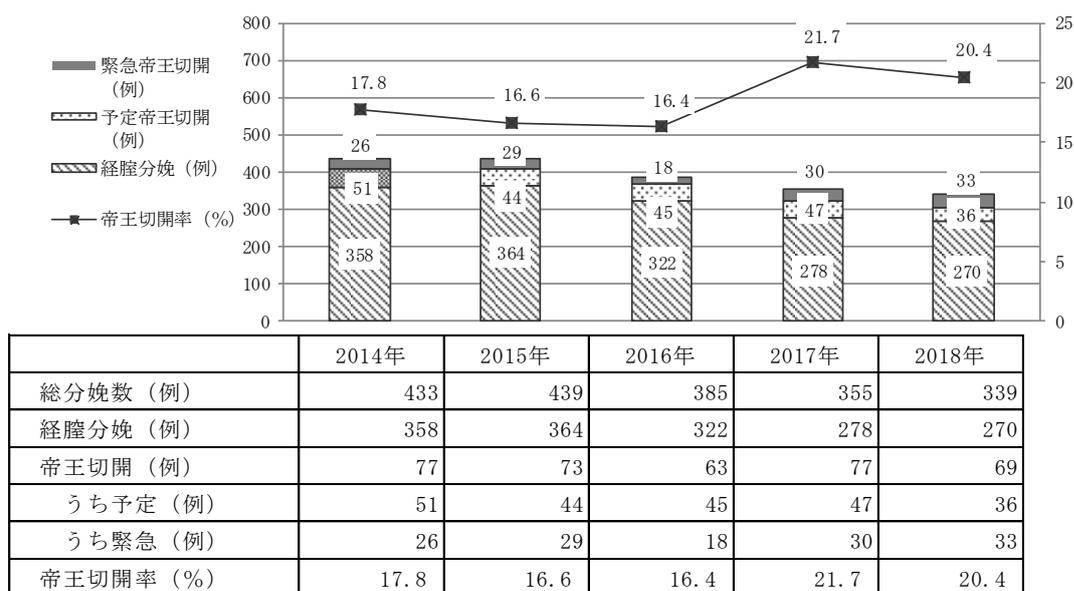
◆ 入院数 (例)



◆ 分娩数 (例)



◆ 分娩様式



◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
35週	-	-	2	-	3
36週	1	3	2	3	5
37週	7	3	6	9	38
38週	45	44	42	33	73
39週	102	88	81	90	113
40週	120	131	125	102	79
41週	131	117	97	99	27
42週	29	39	28	16	-
42週以上	-	-	1	-	-

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
35歳未満	326	308	292	241	249
35-39歳	96	98	74	94	79
40-44歳	18	23	19	17	10
45歳以上	-	-	-	-	1

◆ 出産時年齢（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
35歳未満	326	308	292	241	249
35-39歳	96	98	74	94	79
40-44歳	18	23	19	17	10
45歳以上	-	-	-	-	1

◆ 合併症妊娠（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
子宮筋腫	3	2	2	4	12
子宮筋腫（核出術後）	2	6	-	1	3
卵巣嚢腫（腫瘍）	2	-	-	-	-
子宮奇形	-	-	-	-	1
甲状腺機能亢進症	1	-	2	-	1
甲状腺機能低下症	2	1	1	3	1
糖尿病（含GDM）	3	1	2	2	3
喘息	4	2	3	2	5
本態性高血圧	1	1	-	-	-
循環器疾患	-	-	1	-	-
精神科疾患（含てんかん）	-	-	2	2	1
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	-	1	-	-	-
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	1	3	4	4	10
その他	-	-	-	-	-

◆ 産科合併症（例 重複あり）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
切迫早産・前期破水	104	99	107	93	76
妊娠高血圧症候群	7	11	15	18	15
胎内胎児発育制限	5	3	4	6	3
多胎妊娠	2	2	2	2	1
前置胎盤	-	1	-	-	-
産後出血	3	-	2	-	6
弛緩出血	-	-	70	56	45
常位胎盤早期剥離	1	-	1	1	-
HELLP症候群	-	1	-	5	1
低置胎盤	-	1	1	-	1
血液型不適合	5	1	2	1	1
胎児異常	-	5	5	2	2

◆ 産科手術他（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
子宮頸管縫縮術	7	3	5	3	1
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	2	-	-	1	4
産道血腫除去術	2	1	-	-	1

◆ 輸血治療症例（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
輸血治療症例	1	-	2	-	3

◆ 多胎妊娠（例）

双胎	1
うちMD	1
うちDD	-

(※2018年より新規集計)

◆ 胎児異常（例）

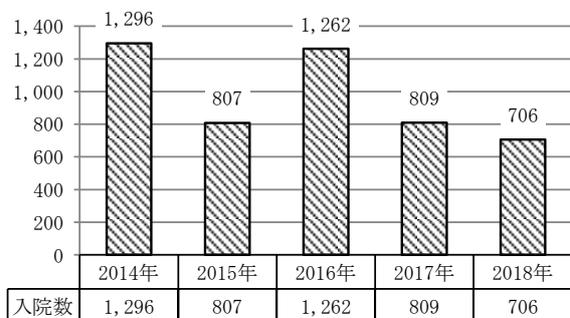
疾患名	2018年	
	症例数	胎内診断
21トリソミー	2	2

(※2018年より新規集計)

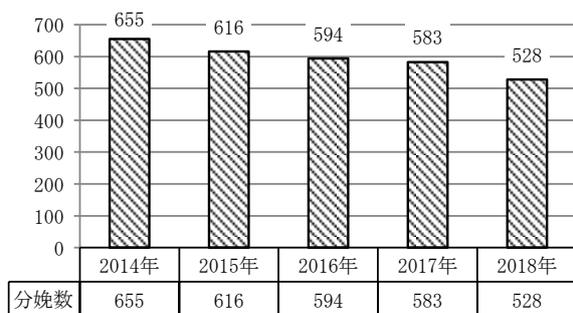
(3) 大和高田市立病院

入院数、分娩数ともに減少傾向である。帝王切開率に変化はない。合併症等もほぼ変化はない。

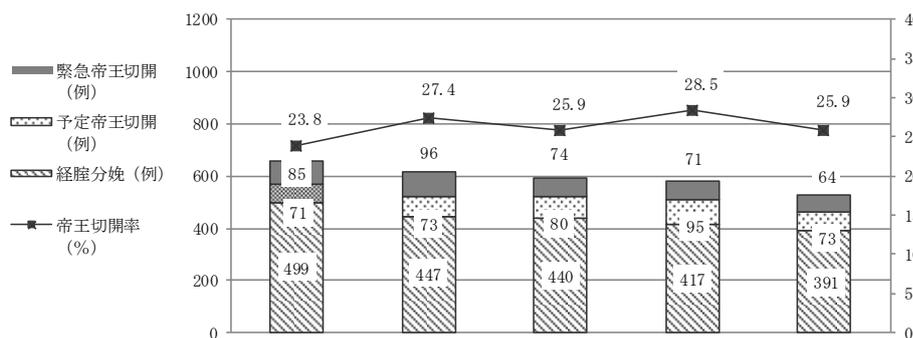
◆ 入院数 (例)



◆ 分娩数



◆ 分娩様式



	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
総分娩数 (例)	655	616	594	583	528
経膣分娩 (例)	499	447	440	417	391
帝王切開 (例)	156	169	154	166	137
うち予定 (例)	71	73	80	95	73
うち緊急 (例)	85	96	74	71	64
帝王切開率 (%)	23.8	27.4	25.9	28.5	25.9

◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
35週	3	2	5	3	-
36週	23	14	17	15	21
37週	63	61	56	70	53
38週	166	138	134	136	115
39週	205	172	180	174	156
40週	172	193	167	155	143
41週	22	30	35	30	40

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
1,500-1,999g	1	-	1	-	1
2,000-2,499g	65	51	34	40	35
2,500g以上	588	563	559	545	492

◆ 出産時年齢（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
35歳未満	507	475	471	430	400
35-39歳	120	116	99	120	103
40-44歳	27	24	22	33	25
45歳以上	-	1	2	-	-

◆ 合併症妊娠（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
子宮筋腫	5	4	8	7	-
子宮筋腫（核出術後）	-	-	4	3	-
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	8	3	5	6
子宮頸癌（含円錐切除後）	4	-	4	2	-
子宮奇形	-	-	-	-	-
甲状腺機能亢進症	2	-	5	1	2
甲状腺機能低下症	4	-	4	5	-
糖尿病（含GDM）	18	9	10	7	10
喘息	4	2	3	3	-
慢性腎炎	2	-	-	2	-
本態性高血圧	-	-	-	-	-
ITP	-	-	-	-	-
自己免疫疾患	-	-	2	3	1
循環器疾患	-	2	2	2	5
精神科疾患（含てんかん）	1	-	2	1	1
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	4	2	2	-	-
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	3	1	4	5	4

◆ 産科合併症（例 重複あり）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
切迫早産・前期破水	41	65	76	103	98
妊娠高血圧症候群	12	21	7	22	19
胎内胎児発育制限	10	8	1	1	3
多胎妊娠	4	4	2	2	1
前置胎盤	2	1	1	2	-
産後出血	40	29	8	10	10
子癩	-	-	-	-	3
弛緩出血	-	-	-	-	3
常位胎盤早期剥離	5	3	2	1	4
HELLP症候群	-	-	-	-	-
低置胎盤	2	2	-	-	-
血液型不適合	4	-	4	3	1
羊水過多	-	-	-	1	1
羊水過小	4	1	-	-	-
胎児異常	1	1	2	-	1

◆ 産科手術他（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
子宮頸管縫縮術	-	-	-	-	-
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	-	-	2	2	1
産道血腫除去術	-	2	-	2	-

◆ 輸血治療症例（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
輸血治療症例	2	4	1	5	2

◆ 多胎妊娠（例）

	2018年
双胎	1
うちMD	-
うちDD	1
うち不明	-
三胎	-

(※2018年より新規集計)

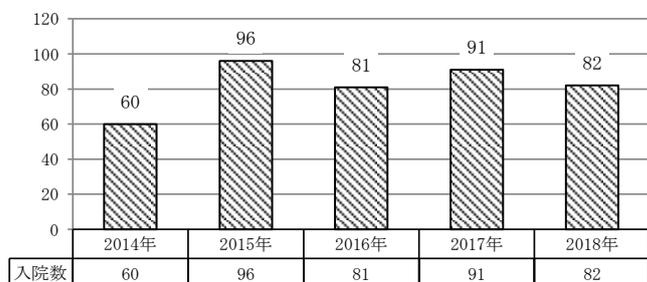
◆ 胎児異常（例）

疾患名	2018年	
	症例数	胎内診断
脳室拡大	1	1
心室中隔欠損	5	-
水腎症	1	-
血管腫	6	-

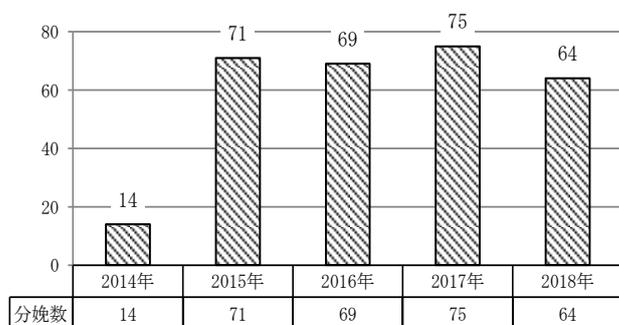
(※2018年より新規集計)

(4) 高井病院

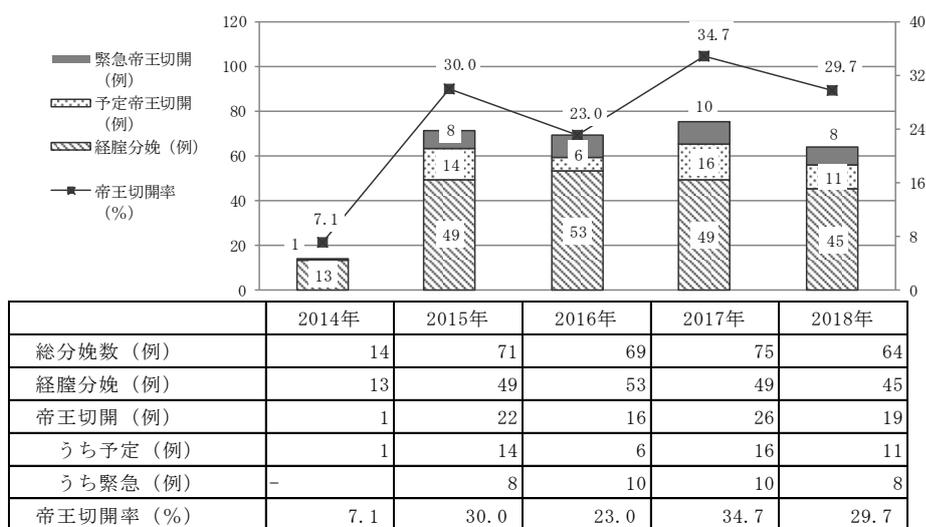
◆ 入院数 (例)



◆ 分娩数



◆ 分娩様式



◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
31週	-	-	-	1	-
32週	-	-	-	-	-
33週	-	-	-	-	-
34週	-	-	-	-	-
35週	-	1	-	2	2
36週	-	2	2	1	-
37週	1	12	5	11	12
38週	7	13	12	14	22
39週	1	16	19	24	9
40週	3	21	20	18	14
41週	2	5	11	4	5

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
1,500-1,999g	-	-	1	1	-
2,000-2,499g	-	7	4	7	5
2,500g以上	14	63	65	67	59

◆ 出産時年齢（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
35歳未満	10	59	55	59	50
35-39歳	3	11	12	14	12
40-44歳	1	1	2	2	2

◆ 合併症妊娠（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
子宮筋腫	-	-	-	3	-
子宮筋腫(核出術後)	-	-	-	-	1
卵巣嚢腫(腫瘍)	-	-	2	1	2
子宮頸癌(含円錐切除後)	-	-	-	-	2
子宮奇形	-	-	1	-	-
甲状腺機能亢進症	-	-	-	-	-
甲状腺機能低下症	-	-	-	-	1
ウイルス性肝炎(HA, HB, HCなど)	-	-	-	1	-

◆ 産科合併症（例 重複あり）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
切迫早産・前期破水	-	7	10	9	5
妊娠高血圧症候群	-	1	3	4	2
胎内胎児発育制限	-	1	1	2	-
多胎妊娠	-	-	-	1	-
産後出血	-	-	-	5	-
弛緩出血				-	6
常位胎盤早期剥離	-	-	-	1	-
低置胎盤	-	-	1	-	-
血液型不適合	-	-	-	2	1
胎児異常	-	-	-	2	-

◆ 産科手術他（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	5	-	-	-	-
子宮摘出術	5	-	-	-	1

◆ 輸血治療症例（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
輸血治療症例	-	-	-	-	1

◆ 多胎妊娠（例）

該当なし

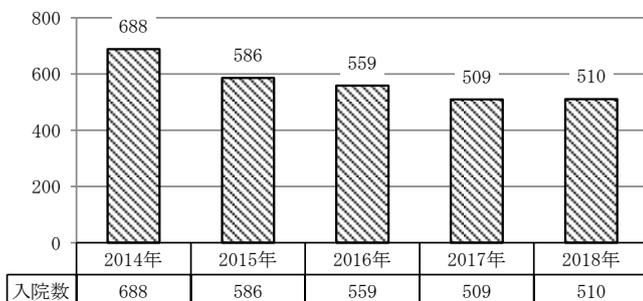
◆ 胎児異常（例）

疾患名	2018年	
	症例数	胎内診断
手指異常（合指／多指）	1	-

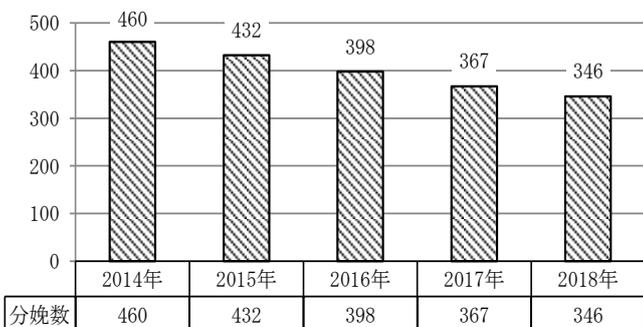
(※2018年より新規集計)

(5) 桜井病院

◆ 入院数 (例)

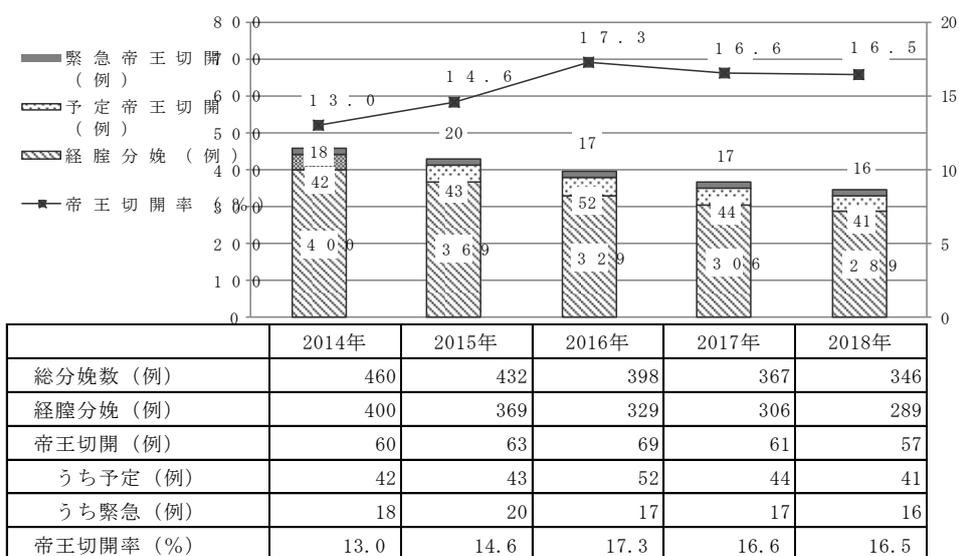


◆ 分娩数



◆ 分娩様式

分娩数の制限、ハイリスク妊婦の積極的な紹介により総分娩数の減少につながっている。



◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
34週	-	1	-	-	-
35週	-	-	-	-	-
36週	7	5	4	5	3
37週	68	62	80	63	54
38週	70	74	65	66	46
39週	123	145	129	113	116
40週	144	102	88	89	95
41週	48	42	30	31	31
42週	-	1	-	-	1

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
2,000-2,499g	17	17	23	13	19
2,500g以上	443	415	373	354	327

◆ 出産時年齢（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
35歳未満	360	344	304	278	266
35-39歳	87	78	83	78	66
40-44歳	13	10	9	11	14

◆ 合併症妊娠（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
子宮筋腫	9	10	4	5	6
子宮筋腫(核出術後)	-	1	-	2	2
卵巣囊腫(腫瘍)	3	6	10	1	8
子宮頸癌(含円錐切除後)	1	2	1	-	1
甲状腺機能亢進症	4	4	-	3	2
甲状腺機能低下症	5	7	10	12	16
糖尿病(含GDM)	3	3	4	5	4
喘息	2	-	1	2	3
本態性高血圧	-	-	-	-	1
循環器疾患	-	-	-	-	3
精神科疾患(含てんかん)	1	-	4	2	1
ウイルス性肝炎(HA, HB, HCなど)	2	-	-	1	-
消化器疾患(虫垂炎、潰瘍性大腸炎など)	1	-	2	1	1
その他	12	-	4	5	-

◆ 産科合併症（例 重複あり）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
切迫早産・前期破水	7	3	5	4	1
妊娠高血圧症候群	5	3	1	5	8
胎内胎児発育制限	6	-	-	-	-
産後出血	8	11	4	4	1
弛緩出血	-	-	4	4	6
常位胎盤早期剥離	5	5	1	2	1
低置胎盤	1	4	1	2	1
血液型不適合	-	6	3	2	3
胎児異常	5	8	7	2	8
その他	-	-	-	1	6

◆ 産科手術他（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
子宮頸管縫縮術	-	1	-	-	2
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	-	10	-	-	2
その他	-	-	-	-	2

◆ 輸血治療症例（例）

該当なし

◆ 多胎妊娠（例）

該当なし

◆ 胎児異常（例）

胎内診断の水腎症に関しては全症例、産後確認され経過をみながら他院、紹介フォローへとつながっている。

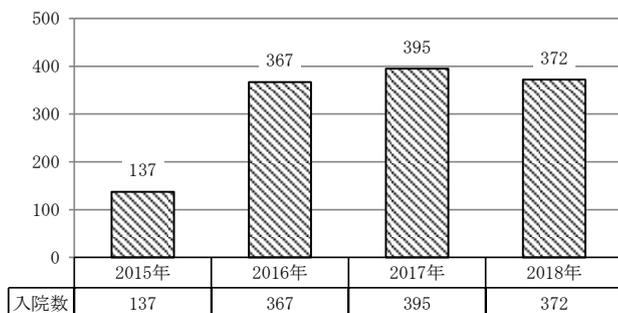
疾患名	2018年	
	症例数	胎内診断
手指異常（合指／多指）	1	-
水腎症	8	8

(※2018年より新規集計)

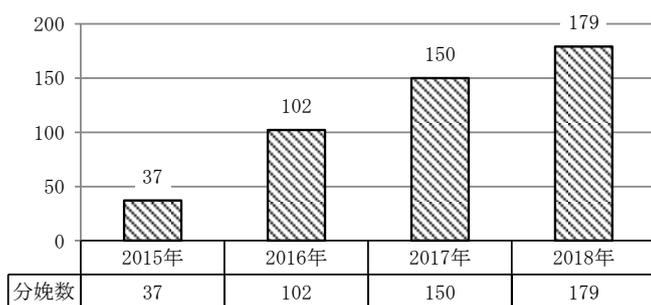
(6) 奈良県西和医療センター

◆ 入院数 (例)

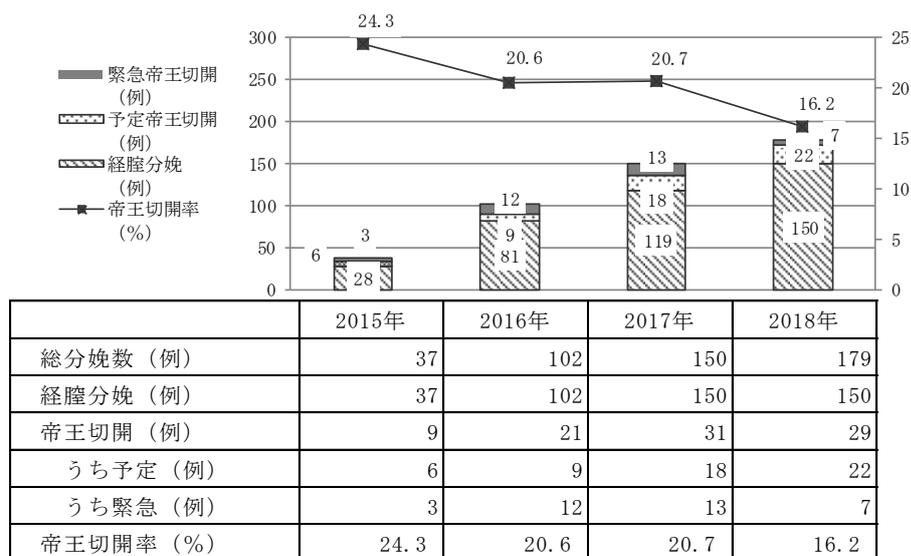
産婦人科で入院した件数



◆ 分娩数



◆ 分娩様式



◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2015年	2016年	2017年	2018年
36週	-	4	3	1
37週	7	12	10	25
38週	7	28	34	34
39週	11	28	50	42
40週	11	25	37	61
41週	1	4	15	15

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2015年	2016年	2017年	2018年
2,000-2,499g	1	8	14	5
2,500g以上	36	94	135	173

◆ 出産時年齢（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年
35歳未満	29	70	111	129
35-39歳	4	28	30	41
40-44歳	4	4	8	8
45歳以上	-	-	-	1

◆ 合併症妊娠（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年
子宮筋腫	1	1	1	3
子宮筋腫(核出術後)	-	-	-	1
子宮頸癌(含円錐切除後)	1	-	-	-
甲状腺機能低下症	2	-	-	-
糖尿病(含GDM)	-	-	-	1
喘息	-	-	-	1
精神科疾患(含てんかん)	-	-	-	1
ウイルス性肝炎(HA, HB, HCなど)	-	-	-	1

◆ 産科合併症（例 重複あり）

	2015年	2016年	2017年	2018年
切迫早産・前期破水	-	8	6	11
妊娠高血圧症候群	-	2	7	5
産後出血	9	-	-	-
子癇	-	-	-	-
弛緩出血	-	34	40	31
羊水過小	-	-	-	1
胎児異常	-	-	-	1

◆ 産科手術他（例）

該当なし

◆ 胎児異常（例）

該当なし

◆ 輸血治療症例（例）

該当なし

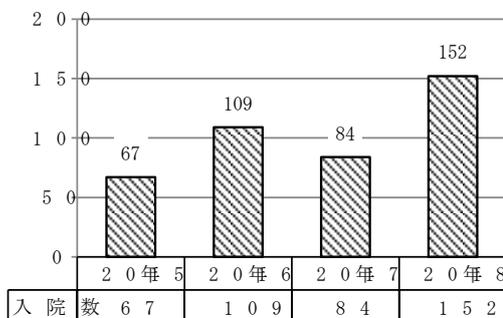
◆ 多胎妊娠（例）

該当なし

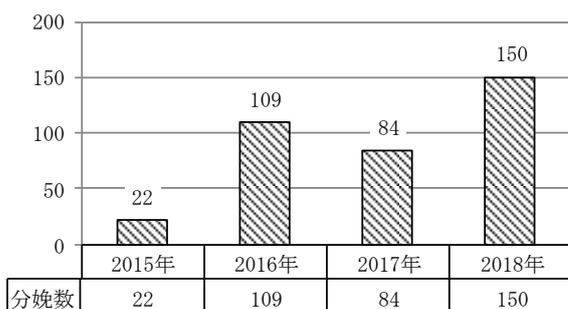
(7) 生駒市立病院

※2015年については2015.6.1(開設日)～2015.12.31のデータ

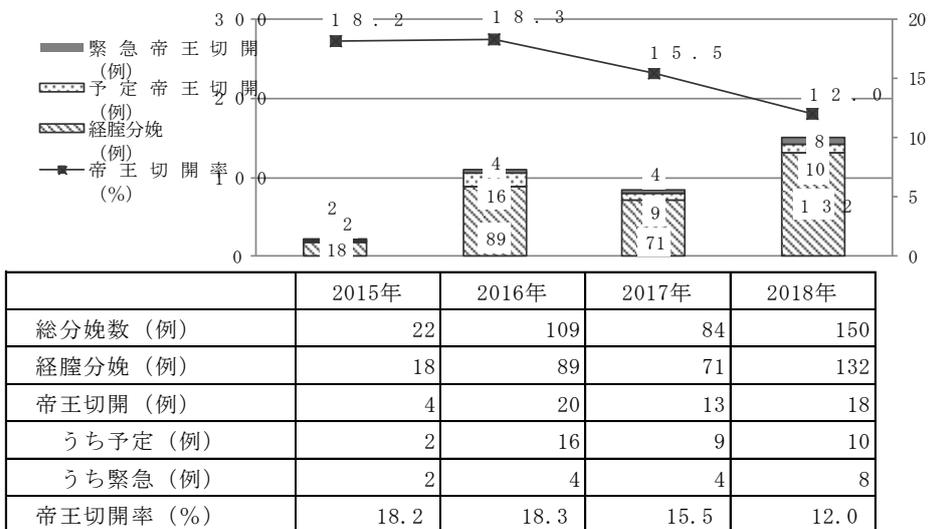
◆ 入院数 (例)



◆ 分娩数



◆ 分娩様式



◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2015年	2016年	2017年	2018年
35週	-	-	-	1
36週	-	1	-	11
37週	-	6	8	8
38週	9	31	14	30
39週	8	28	30	42
40週	4	33	26	47
41週	1	10	6	11

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2015年	2016年	2017年	2018年
1,500-1,999g	-	-	1	1
2,000-2,499g	1	3	2	13
2,500g以上	21	106	81	136

◆ 出産時年齢（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年
35歳未満	15	67	50	101
35-39歳	4	35	23	39
40-44歳	3	7	10	10
45歳以上	-	-	1	-

◆ 合併症妊娠（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年
子宮筋腫	-	1	-	7
子宮筋腫(核出術後)	-	2	2	2
卵巣嚢腫(腫瘍)	-	-	1	-
子宮頸癌(含円錐切除後)	-	-	-	1
甲状腺機能亢進症	-	-	1	1
甲状腺機能低下症	-	-	-	1
糖尿病(含GDM)	-	1	3	4
喘息	-	-	3	2
本態性高血圧	-	-	-	1
自己免疫疾患	-	-	-	1
精神科疾患(含てんかん)	-	-	1	-
消化器疾患(虫垂炎、潰瘍性大腸炎など)	-	-	2	-
その他	-	-	2	1

◆ 産科合併症（例 重複あり）

	2015年	2016年	2017年	2018年
切迫早産・前期破水	1	3	2	2
妊娠高血圧症候群	1	2	3	4
胎内胎児発育制限	-	-	1	-
前置胎盤	1	1	1	-
産後出血	-	1	-	-
弛緩出血	-	-	-	1
低置胎盤	-	-	-	1
血液型不適合	-	-	-	1
羊水過多	-	7	-	-
羊水過小	-	8	-	-
胎児異常	-	1	-	-

◆ 産科手術他（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	3	6	10	11
子宮摘出術	7	3	11	6
その他	-	-	31	32

◆ 輸血治療症例（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年
輸血治療症例	-	-	2	-

◆ 多胎妊娠（例）

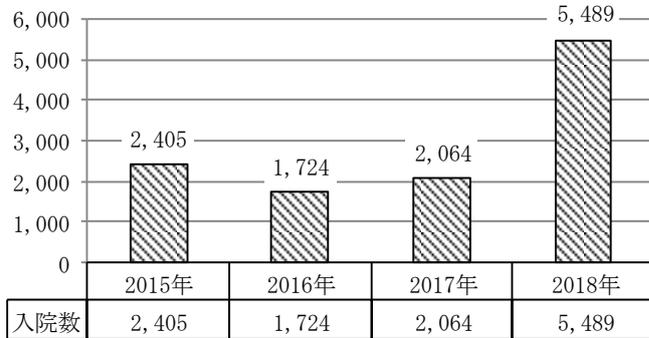
該当なし

◆ 胎児異常（例）

該当なし

7. 県内分娩取扱診療所

◆ 入院数（例）

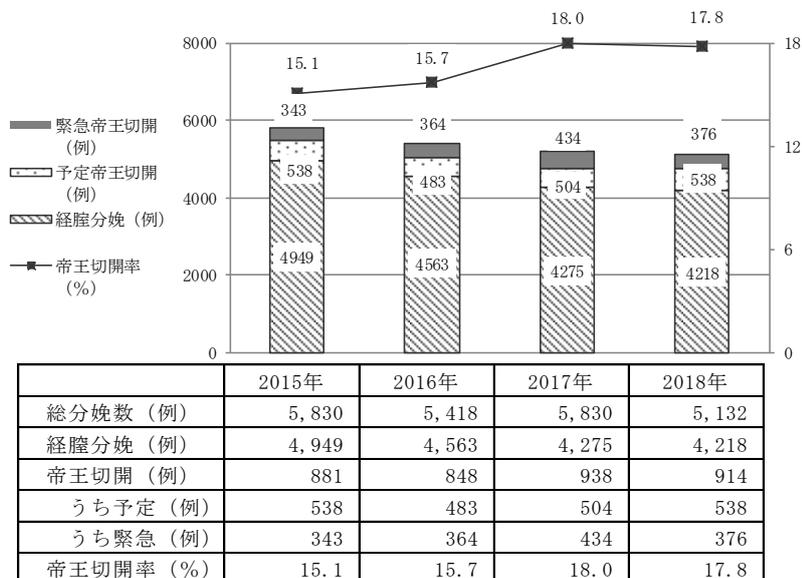


(※2015～2017年 一部医療機関未回答)

◆ 分娩数（例）



◆ 分娩様式



◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2015年	2016年	2017年	2018年
31週	-	-	-	1
32週	-	-	-	-
33週	-	-	-	-
34週	-	-	-	3
35週未満	3	3	-	-
35週	15	14	12	11
36週	98	89	94	91
37週	458	438	414	401
38週	1,172	1,133	1,203	1,016
39週	1,800	1,714	1,610	1,591
40週	1,660	1,513	1,384	1,467
41週	536	489	447	513
42週	29	12	25	24
42週以上	2	-	1	-

（※2017年まで：35週未満はまとめて集計）

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2015年	2016年	2017年	2018年
1,500-1,999g	10	2	6	8
2,000-2,499g	280	244	247	250
2,500g以上	5,163	5,162	4,942	4,860

◆ 出産時年齢（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年
35歳未満	4,118	4,043	3,877	3,832
35-39歳	1,158	1,171	1,099	1,089
40-44歳	180	207	226	210
45歳以上	2	-	6	1

◆ 合併症妊娠（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年
子宮筋腫	58	103	47	73
子宮筋腫（核出術後）	18	18	12	10
卵巣嚢腫（腫瘍）	26	20	19	21
子宮頸癌（含円錐切除後）	13	14	10	10
子宮奇形	3	7	1	3
甲状腺機能亢進症	13	12	13	10
甲状腺機能低下症	21	22	28	34
糖尿病（含GDM）	9	20	40	18
喘息	27	28	46	56
慢性腎炎	-	-	1	-
本態性高血圧	3	-	-	-
ITP	-	2	1	-
自己免疫疾患	1	-	4	3
循環器疾患	3	-	1	4
精神科疾患（含てんかん）	16	13	5	10
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	13	9	5	4
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	8	2	6	1
その他	1	1	7	45

◆ 産科合併症（例 重複あり）

	2015年	2016年	2017年	2018年
切迫早産・前期破水	268	455	146	242
妊娠高血圧症候群	84	77	55	119
胎内胎児発育制限	41	38	82	30
多胎妊娠	2	4	1	3
前置胎盤	3	2	-	1
産後出血	168	165	75	117
子癇	-	-	-	1
弛緩出血	-	-	-	150
常位胎盤早期剥離	8	12	9	20
HELLP症候群	3	1	1	1
低置胎盤	5	17	15	3
血液型不適合	18	14	13	9
羊水過多	11	33	24	15
羊水過小	26	47	38	53
胎児異常	24	6	7	5
その他	8	13	2	1

◆ 産科手術他（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年
子宮頸管縫縮術	23	4	10	20
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	7	2	1	-
産道血腫除去術	11	6	6	5
子宮動脈塞栓術	-	-	2	-
その他	5	1	-	-

◆ 輸血治療症例（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年
輸血治療症例	14	8	8	7

◆ 多胎妊娠（例）

	2018年
双胎	3
うちMD	2
うちDD	1

(※2018年より新規集計)

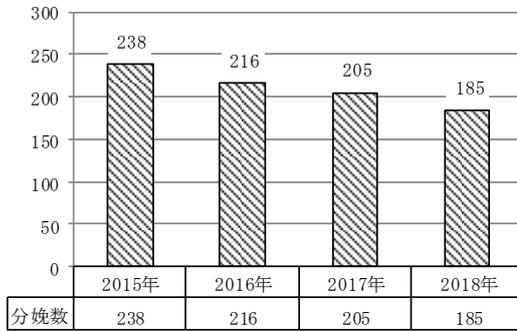
◆ 胎児異常（例）

疾患名	2018年	
	症例数	胎内診断
21トリソミー	4	1
手指異常（合指／多指）	1	-
先天性横隔膜ヘルニア	2	-
心室中隔欠損	6	-
胎児水腫	1	1
小腸閉鎖	1	1
尿道下裂	1	-
口唇裂・口蓋裂	2	-
不整脈	1	-
ファロー四徴症	1	-
鎖肛	1	-
卵巣嚢腫	2	2
血管腫	13	-

(※2018年より新規集計)

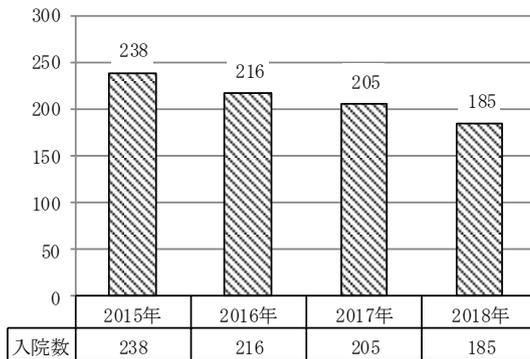
8. 県内分娩取扱助産所

◆ 入院数（例）

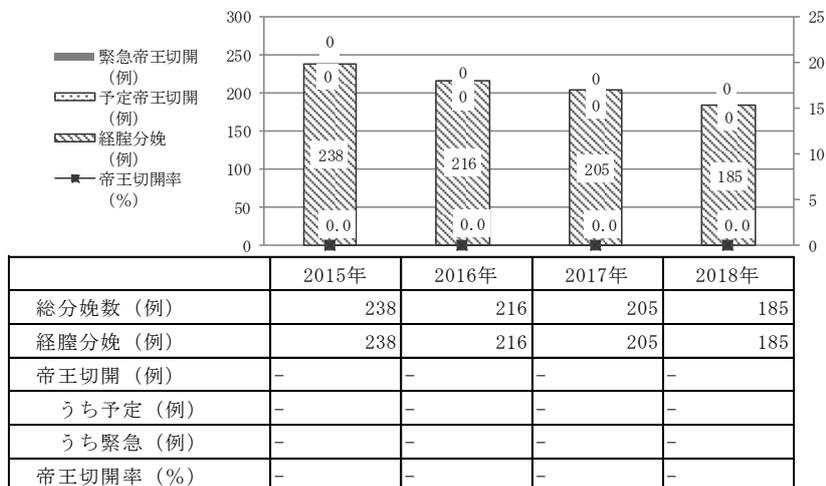


◆ 分娩数（例）

助産所分娩数は県下の出生数の減少に伴い、年々減少傾向にある。



◆ 分娩様式



◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2015年	2016年	2017年	2018年
37週	14	-	12	9
38週	35	10	44	36
39週	94	43	68	66
40週	87	69	62	68
41週	7	84	19	6
42週	1	10	-	-

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2015年	2016年	2017年	2018年
2,000-2,499g	1	3	2	1
2,500g以上	237	213	203	184

◆ 出産時年齢（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年
35歳未満	183	141	146	133
35-39歳	48	67	50	44
40-44歳	7	9	9	8

◆ 合併症妊娠（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年
子宮筋腫	3	1	5	-
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	-	3	-
甲状腺機能亢進症	1	-	-	-
精神科疾患(含てんかん)	1	-	-	-

◆ 産科合併症（例 重複あり）

前期破水、切迫早産症例についてはそれぞれ妊娠週数に応じて県総合周産期母子医療センター、県地域周産期母子医療センターへ母体搬送され、切迫早産例は正期産の週数には逆紹介により助産所分娩が可能となっている。その他の母体、新生児の異常は連携医療機関、嘱託医との医療連携によりスムーズな受け入れ態勢となっている。

その他 CPD 1例

	2015年	2016年	2017年	2018年
切迫早産・前期破水	8	8	12	6
胎内胎児発育制限	2	-	-	1
産後出血	-	-	1	3
胎児異常	-	-	-	2
その他	-	1	-	1

◆ 産科手術他（例）

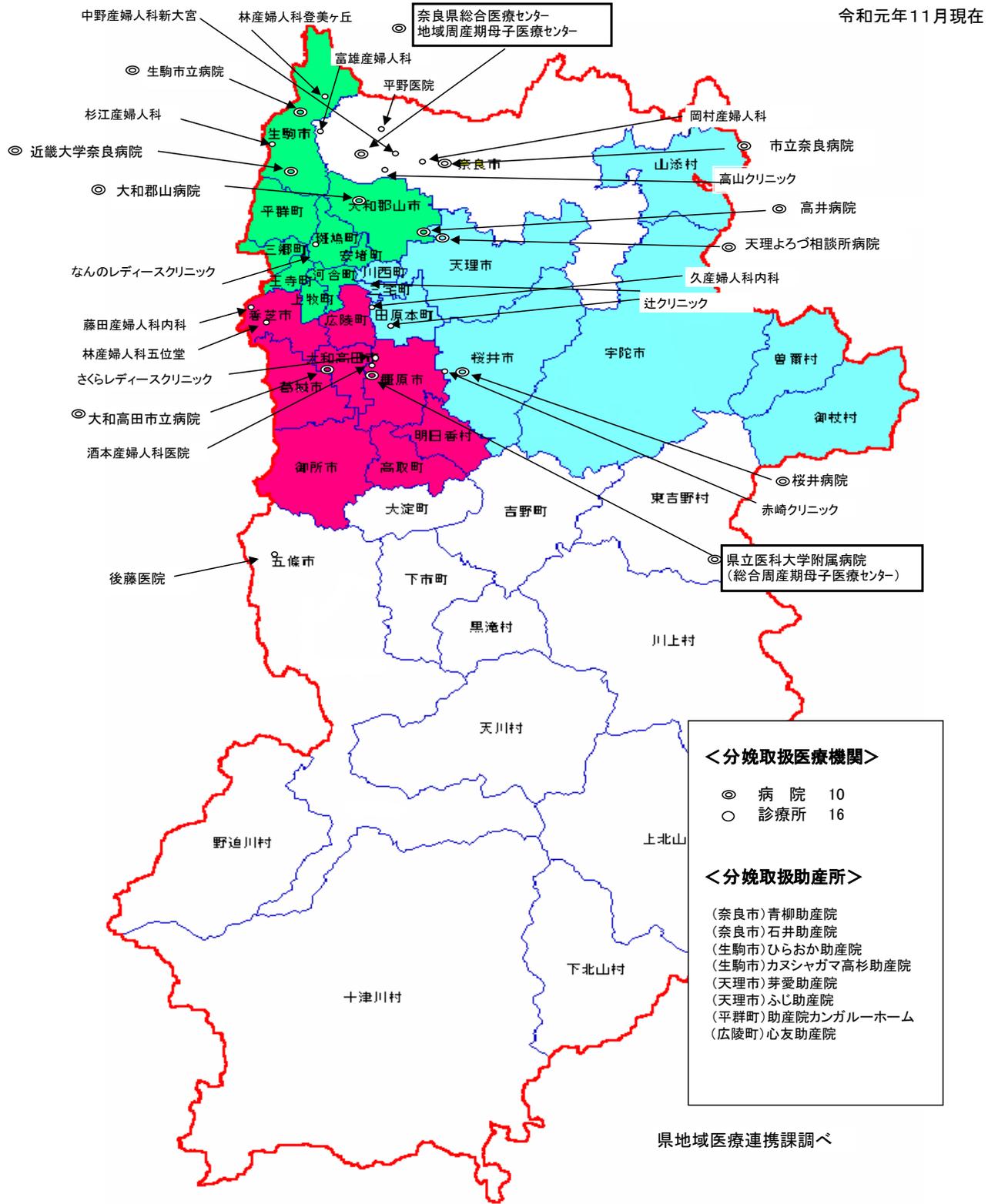
	2015年	2016年	2017年	2018年
産道血腫除去術	-	-	1	-

◆ 輸血治療症例（例）

該当なし

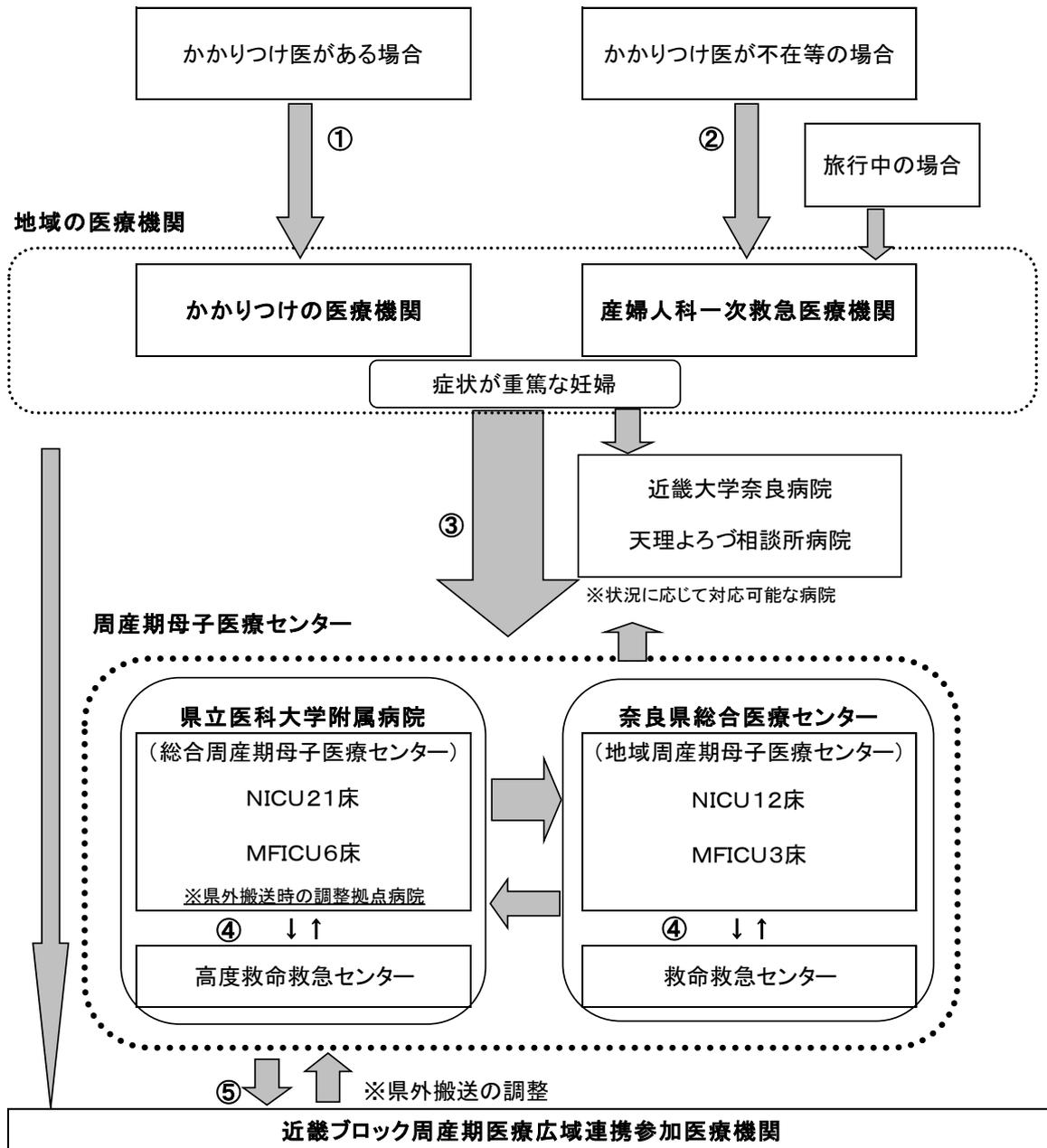
III. 参考資料

1. 奈良県産婦人科（周産期）医療体制図



2. 母体搬送連携イメージ

令和元年11月現在

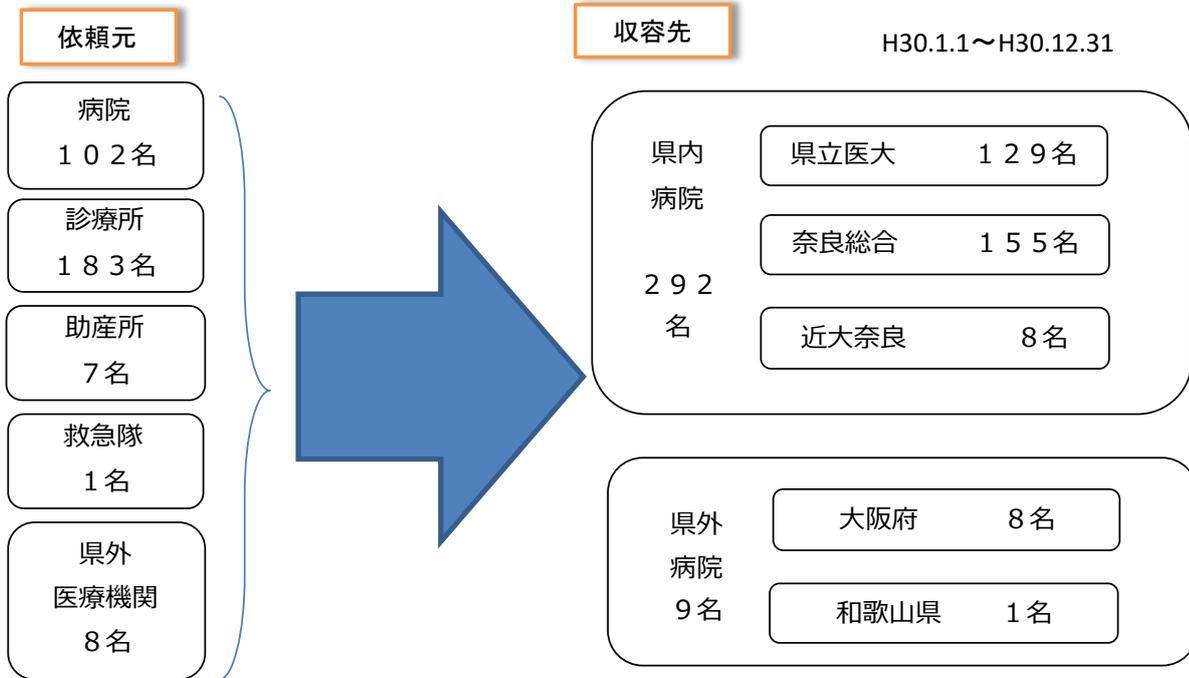


- ① かかりつけ医がまず対応
- ② かかりつけ医がないもしくは対応できない場合には産婦人科一次救急医療機関が対応
- ③ かかりつけ医、産婦人科一次救急医療機関等地域の医療機関で対応ができない症状の場合は周産期母子医療センターが対応
- ④ 周産期母子医療センターにおいて産科合併症以外の合併症等の重篤な症状の場合、必要に応じて併設する救命救急センターと連携し、対応
- ⑤ 万一母体の県外搬送が必要になった場合、近隣府県の広域搬送調整拠点病院を通じて、早急に県外搬送先を選定し、搬送

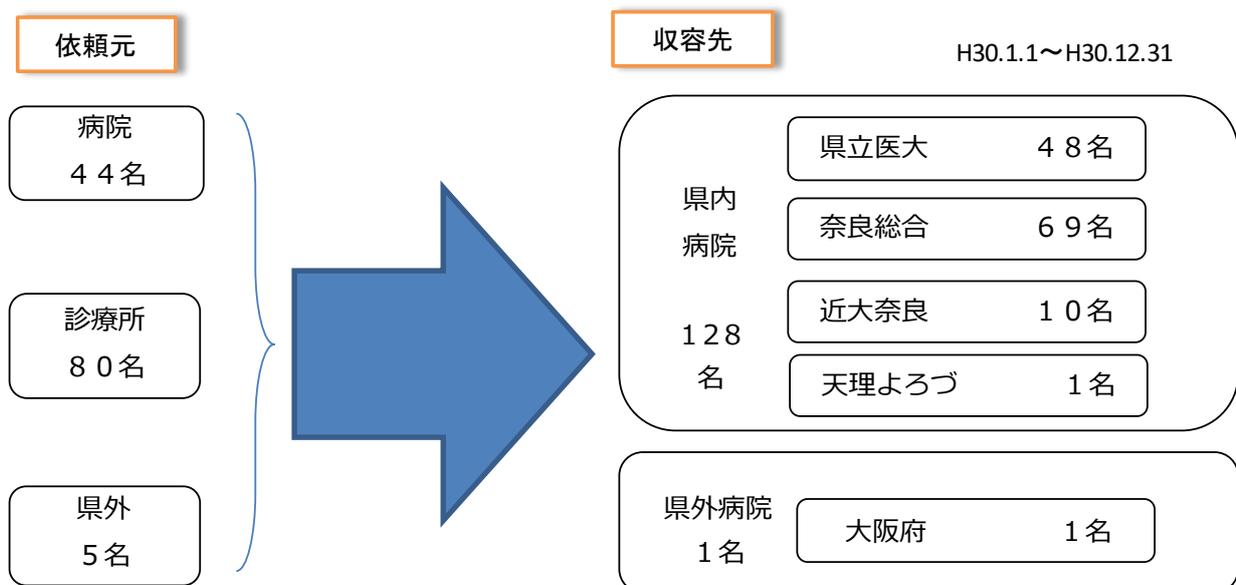
3. 母体・新生児搬送状況

奈良県周産期医療情報システムを利用した搬送状況

◆母体搬送



◆新生児搬送



4. 産婦人科一次救急体制参加医療機関

産婦人科一次救急体制参加医療機関一覧

(地域別、五十音順)
(令和元年11月1日現在)

地域	医療機関名	住所及び電話番号
北和	岡村産婦人科	奈良市西木辻町30 0742-23-3566
	きよ女性クリニック	奈良市石木町50-1 0742-53-0411
	市立奈良病院	奈良市東紀寺町1-50-1 0742-24-1251
	杉江産婦人科	生駒市本町1-11-3 0743-75-0123
	富雄産婦人科	奈良市三松4-878-1 0742-43-0381
	中野産婦人科	奈良市四条大路1-3-57 0742-30-0039
	なんのレディースクリニック	生駒郡斑鳩町興留5-14-8 0745-75-5623
	大和郡山病院	大和郡山市朝日町1-62 0743-53-1111
中南和	赤崎クリニック	桜井市大字谷111 0744-43-2468
	酒本産婦人科	橿原市内膳町4-4-26 0744-25-3389
	桜井病院	桜井市桜井973 0744-43-3541
	内藤医院	桜井市桜井996 0744-42-2138
	林産婦人科五位堂医院	香芝市真美ヶ丘一丁目13-27 0745-71-5201

5. 産婦人科対応マニュアル

産婦人科救急対応マニュアル（抜粋）

1. 一次救急編

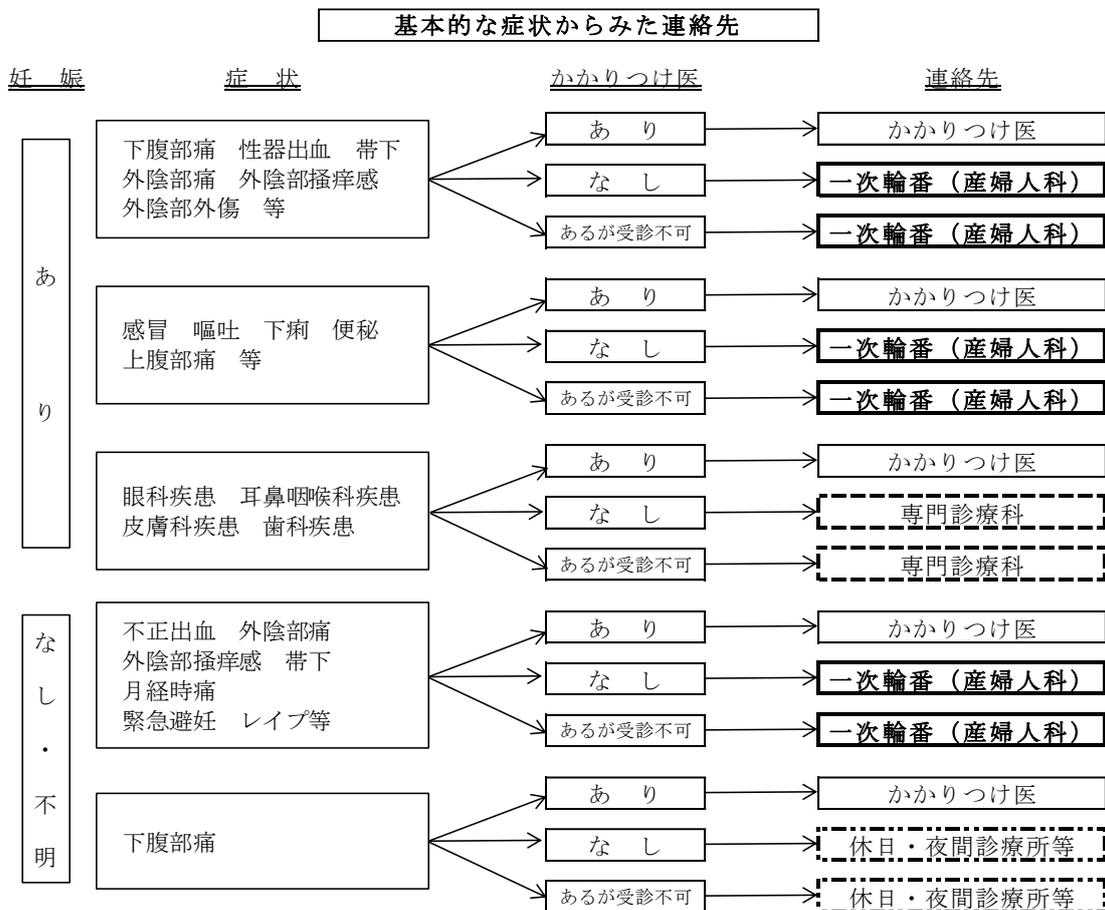
このマニュアルは、休日・夜間等に救急要請や受診要請があった際に、産婦人科の受診が必要か、その他の診療科の受診が必要かの判断をするための、目安とするためのチェックリストとして作成いたしました。

このマニュアルは救急隊が患者と直接の電話対応に使用したり、医事受付担当者や守衛等が休日・夜間等に受付を行なう際に最低限必要な情報を確認し、診療科の判断が出来るように作成しています。

実際は医事受付担当者等が患者との対応を行なう例もありますが、本来患者との電話対応は医師、看護師が行なうことが望ましいのはいうまでもないため、医事受付担当者等は医師、看護師等との連絡を密に取った上で対応に当たるよう努めてください。

なお、マニュアルの使用前に一般救急として必要な項目の聞き取り等は、別に行なってください。その結果、産婦人科受診が必要と認められた場合にご使用いただきますようお願いいたします。

また、このマニュアルにかかわらず、緊急度が高い際にはそれぞれ関係者の判断により対応いただきますようお願いいたします。



6. 分娩取扱医療機関一覧

奈良県内の分娩取扱医療機関一覧

令和元年11月1日現在

医療機関名		医療圏	住所
1	奈良県総合医療センター	奈良	630-8581 奈良市七条西町897番5号
2	市立奈良病院	奈良	630-8305 奈良市東紀寺町1-50-1
3	高井病院	東和	632-0006 天理市蔵之庄町470-8
4	天理よろづ相談所病院	東和	632-0015 天理市三島町200番地
5	桜井病院	東和	633-0091 桜井市桜井973
6	大和郡山病院	西和	639-1013 大和郡山市朝日町1-62
7	近畿大学奈良病院	西和	630-0227 生駒市乙田町1248番-1
8	生駒市立病院	西和	630-0213 生駒市東生駒1-6-2
9	県立医科大学附属病院	中和	634-0813 橿原市四条町840
10	大和高田市立病院	中和	635-0094 大和高田市磯野北町1番1号
病院計		10	
12	高山クリニック	奈良	630-8031 奈良市柏木町190-5
13	富雄産婦人科	奈良	631-0074 奈良市三松4丁目878番1
14	平野医院	奈良	631-0821 奈良市西大寺東町2-1-52
15	岡村産婦人科	奈良	630-8325 奈良市西木辻町30番地の10
16	中野産婦人科新大宮	奈良	630-8014 奈良市四条大路1丁目3-57
17	赤崎クリニック	東和	633-0053 桜井市大字谷111
18	久産婦人科	東和	636-0304 磯城郡田原本町十六面23番地の1
19	辻クリニック	東和	636-0300 磯城郡田原本町547
20	なんのレディースクリニック	西和	636-0123 生駒郡斑鳩町興留5丁目14-8
21	杉江産婦人科	西和	630-0257 生駒市元町1丁目11-3
22	林産婦人科登美ヶ丘	西和	630-0115 生駒市鹿畑町55番1
23	酒本産婦人科	中和	634-0804 橿原市内膳町4-4-26
24	藤田産婦人科	中和	639-0251 香芝市逢坂7丁目130番地の1号
25	林産婦人科五位堂	中和	639-0223 香芝市真美ヶ丘1-13-27
26	さくらレディースクリニック	中和	634-0803 橿原市上品寺町528
27	後藤医院	南和	637-0041 五條市本町1-7-23
診療所計		16	
28	青柳助産院	奈良	630-8036 奈良市五条畑1丁目17番10-1号
29	石井助産院	奈良	630-8107 奈良市奈保町5番21号
30	カヌシャガマ高杉助産院	西和	630-0136 生駒市白庭台3丁目15番10
31	芽愛助産院	東和	632-0094 天理市前栽町274-1
32	ふじ助産院	東和	632-0004 天理市樺本町2071-8
33	ひらおか助産院	西和	630-0101 生駒市高山町7747番1
34	助産院カンガルーホーム	西和	636-0904 生駒郡平群町三里139-9
35	心友助産院	中和	635-0823 北葛城郡広陵町三吉 赤部 260-3
助産所計		8	

県地域医療連携課調べ

7. 奈良県周産期医療協議会委員名簿

奈良県周産期医療協議会委員名簿

令和元年11月1日現在

区 分	役 職	氏 名
医科大学 (総合周産期 母子医療センター)	公立大学法人奈良県立医科大学 産婦人科学教室教授	小林 浩
	公立大学法人奈良県立医科大学 総合周産期母子医療センター教授	西久保 敏也
関係団体	奈良県産婦人科医会長	赤崎 正佳
地域周産期 母子医療センター	奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター 産婦人科部長	佐道 俊幸
	奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター 新生児集中治療室部長	箕輪 秀樹
病 院	市立奈良病院 産婦人科部長	原田 直哉
	天理よろづ相談所病院 産婦人科部長	藤原 潔
	近畿大学医学部奈良病院 産婦人科教授	大井 豪一
	近畿大学医学部奈良病院 小児外科教授	米倉 竹夫
助産師会	奈良県助産師会	高橋 律子
消 防	奈良県消防長会救急部会長 (奈良市消防局救急課長)	谷手 浩司
奈 良 県	福祉医療部 医療政策局長	鶴田 真也

奈良県周産期医療年報

令和2年（2020年）3月

発行 奈良県周産期医療協議会